DENON

AV サラウンドアンプ

AVC-1508

取扱説明書

安全にお使いいただくためにー必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

総目次

ご使用になる前に

接続のしかた

操作のしかた

Auto Setup（オートセットアップ）

System Setup（システムセットアップ）

Surround Modes（サラウンドモード）

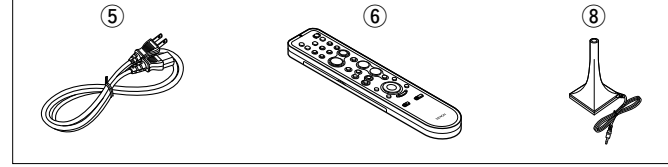
Parameter（パラメーター）

Information（情報）

ご使用になる前に

付属品について

本体とは別に下記の付属品が入っています。
お使いになる前にご確認ください。

① 取扱説明書（本書） …… 1
② 簡単セットアップガイド …… 1
③ 保証書（梱包箱に貼り付けられています。） …… 1
④ 製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表 …… 1
⑤ 電源コード（長さ：約 1.6m） …… 1
⑥ リモコン（RC-1076） …… 1
⑦ 単３形乾電池 …… 2
⑧ セットアップマイク（コードの長さ：約 7.6m） …… 1

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

ステレオ音のエチケット

- 隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例
図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜け

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜け

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で
表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に
電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない
機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水をかけたり、濡らしたりしない
雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない
内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら
機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

禁止

乾電池は充電しない
電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない
火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない
こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

付属の電源コードを使用する
他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない
電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近付けない
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは
電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する
テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする
突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

長時間音が歪んだ状態で使用しない
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

電池を交換するときは
- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

不安定な場所に置かない
ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

次のような場所には置かない
火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

壁や他の機器から少し離して設置する
放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

通風孔をふさがない
内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない
特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

重いものをのせない
機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

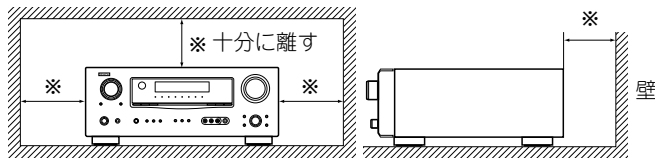
移動させるときは
まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは
安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

5 年に一度は内部の掃除を
販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

取り扱い上のご注意

設置の際のご注意

放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他の AV 機器などとは十分に離して設置してください。

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話を使用すると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置でお使いください。

お手入れについてのご注意

■ キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。
化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

■ ベンジン・シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

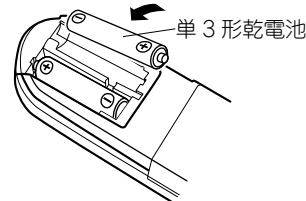
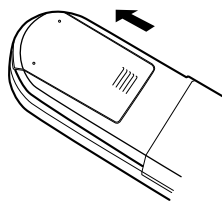
リモコンについて

付属のリモコン（RC-1076）は、本機の操作以外に次の機器の操作もできます。

① DENON製コンポーネント製品
② DENON製以外のコンポーネント製品
- プリセット登録による設定（☞41～43ページ）

乾電池の入れかた

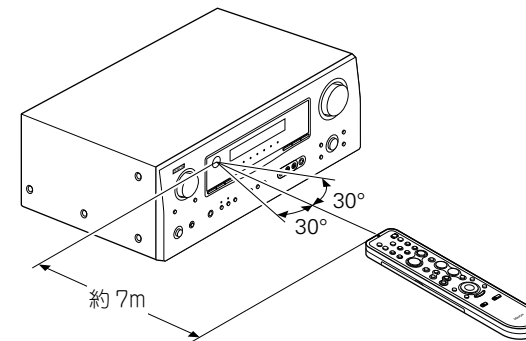
① つまみを引き上げながら、裏ぶたを取り外す。

② 乾電池（2本）を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。

③ 裏ぶたを元通りにしてください。

ご注意

- リモコンには単 3 形乾電池をお使いください。
- リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換して ください。）
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示通りに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を 入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。

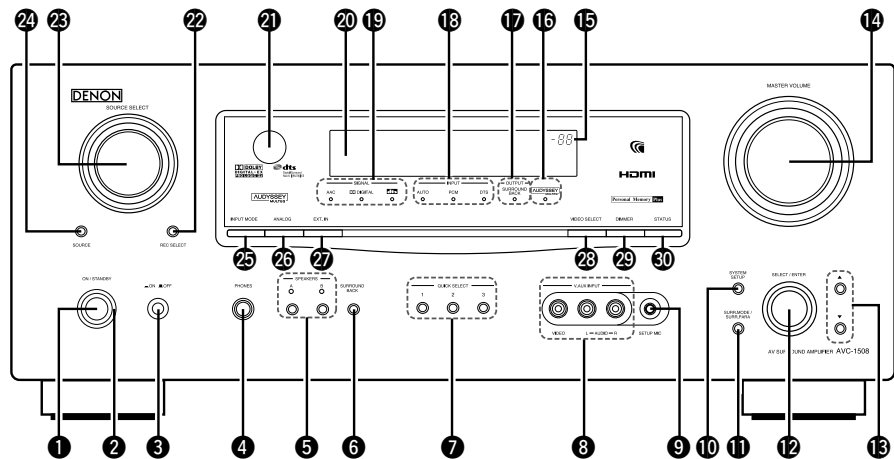
リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてお使いください。

ご注意

リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。

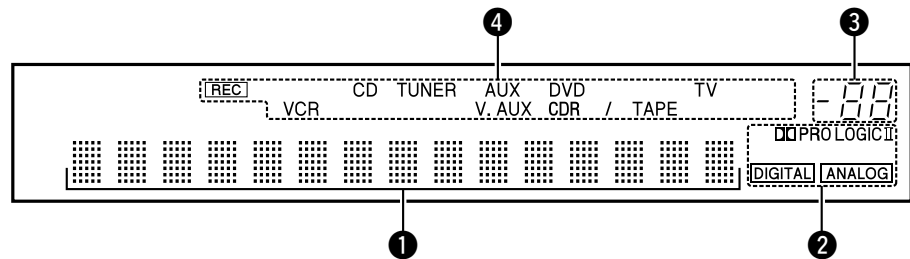
各部の名前とはたらき

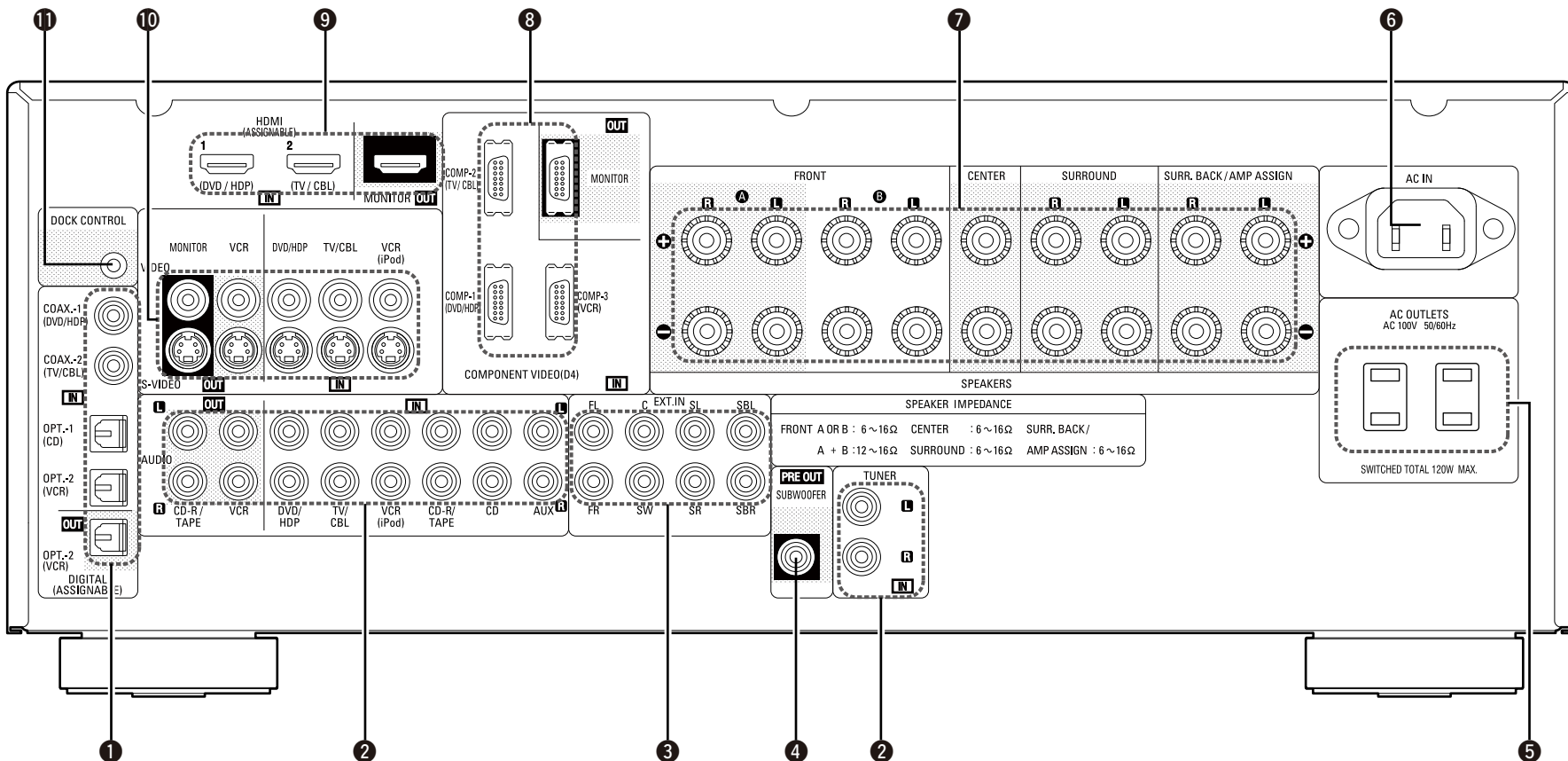
各部のはたらきなど詳しい説明については、（ ）内のページを参照してください。

フロントパネル

❶ 電源ボタン（ON/STANDBY）……………………(36)
❷ 電源表示……………………………………………(36)
❸ 電源スイッチ（▁ON ■OFF）…………(36、40)
❹ ヘッドホン端子（PHONES）…………………(37)
❺ スピーカーボタン（SPEAKER）………(37、40)
❻ サラウンドバックボタン
（SURROUND BACK）…………………(30、33)
❼ クイックセレクトボタン
（QUICK SELECT）……………………………(40)
❽ V.AUX 入力端子（V.AUX INPUT）…………(18)
❾ セットアップマイク端子
（SETUP MIC）…………………………………(21)
❿ システムセットアップボタン
（SYSTEM SETUP）……………………………(24)
⓫ サラウンドモード /
サラウンドパラメーターボタン
（SURR.MODE / SURR.PARA）………………(31)
⓬ セレクト / エンターつまみ
（SELECT/ENTER）……………………(24、30)

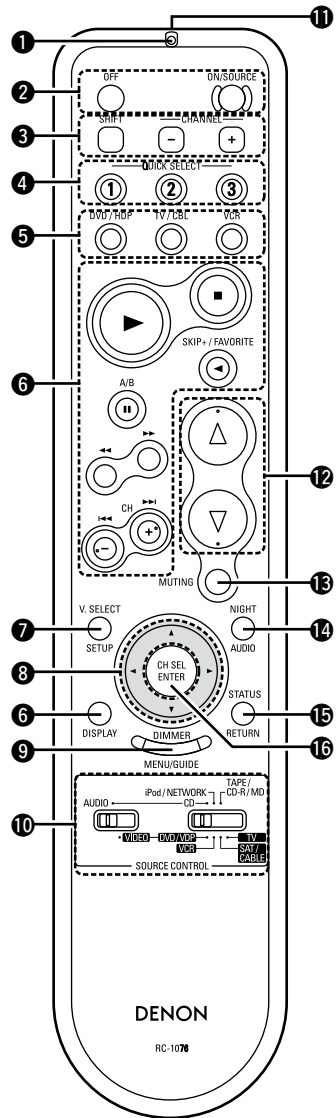
- 本体の **SELECT/ENTER** つまみは、リモコンのカーソル ◁ ▷ ボタンと同じ動作をします。
- つまみを左に回すとカーソル ◁ ボタン、右に回すとカーソル ▷ ボタンと同じ動作をします。
- つまみを押すと、リモコンの **ENTER** ボタンを同じ動作をします。

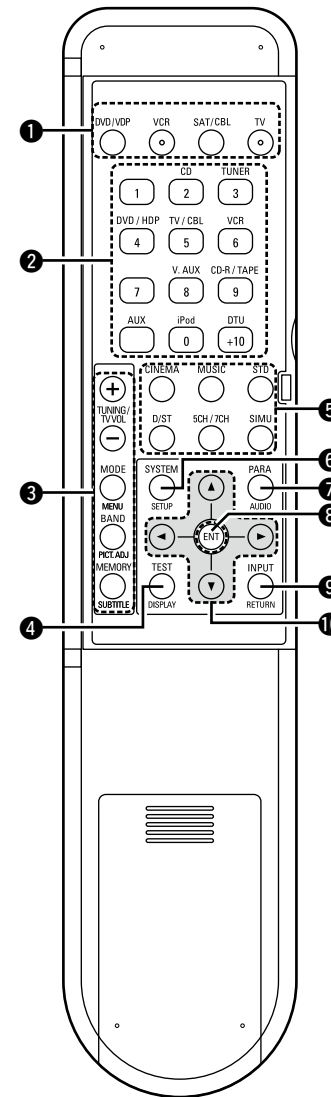
⓭ カーソルボタン（△▽）………………………(24)
⓮ 主音量調節つまみ
（MASTER VOLUME）…………………………(37)
⓯ 主音量表示
⓰ AUDYSSEY 表示………………………………(34)
⓱ SURROUND BACK 表示………………………(30)
⓲ 入力モード表示（INPUT）……………………(36)
⓳ 信号表示（SIGNAL）
⓴ ディスプレイ
㉑ リモコン受光部…………………………………(6)
㉒ 録音出力切り替えボタン
（REC SELECT）…………………………………(39)
㉓ 入力ソース切り替えつまみ
（SOURCE SELECT）……………………………(36)
㉔ ソース切り替えボタン（SOURCE）…………(36)
㉕ 入力モード切り替えボタン
（INPUT MODE）…………………………………(36)
㉖ アナログボタン（ANALOG）…………………(36)
㉗ 外部入力ボタン（EXT. IN）……………………(36)
㉘ ビデオセレクトボタン
（VIDEO SELECT）………………………………(37)
㉙ ディマーボタン（DIMMER）…………………(37)
㉚ ステータスボタン（STATUS）………………(37)

ディスプレイ

❶ インフォメーションディスプレイ
❷ 入力信号表示
❸ 主音量表示
音量レベルやシステムセットアップ時の項目番号を表示します。
❹ 録音出力ソース表示
RECOUT モード選択時に点灯します。
（"SOURCE" を選んでいる場合は消灯します。）

リアパネル

❶ デジタル音声端子（OPTICAL/COAXIAL）…………………（13 ～ 16）
❷ アナログ音声端子（AUDIO）……………………（13）
❸ 外部入力端子（EXT. IN）…………………………（18）
❹ プリアウト端子（PRE OUT）……………………（12）
❺ AC アウトレット（AC OUTLETS）…………（19）
❻ AC インレット（AC IN）…………………………（19）
❼ スピーカー端子（SPEAKERS）…………………（12）
❽ コンポーネント / D4 ビデオ端子 ……………（14）
❾ HDMI 端子……………………………………………（13）
❿ ビデオ / S ビデオ端子（VIDEO/S-VIDEO）……………………………（14）
⓫ ドックコントロール端子（DOCK CONTROL）………………………………（15）

リモコン

【前面】

❶ 送信表示……(41)
❷ 電源ボタン……(36)
❸ チューナーシステムボタン……(39)
❹ クイックセレクトボタン
（QUICK SELECT）……(40)
❺ ソース切り替えボタン……(36)
❻ システムボタン……(39、42)
❼ ビデオセレクトボタン（V. SELECT）……(37)
❽ カーソルボタン（△▽◁ ▷）……(24)
❾ ディマーボタン（DIMMER）……(37)
❿ モード切り替えスイッチ……(37)
⓫ リモコン信号送信窓
⓬ 主音量調節ボタン……(37)
⓭ ミューティングボタン（MUTING）……(37)
⓮ ナイトボタン（NIGHT）……(34)
⓯ ステータスボタン（STATUS）……(35)
⓰ チャンネル切り替えボタン（CH SEL）/
エンターボタン（ENTER）……(24、40)

【裏面】

❶ 電源ボタン……(36)
❷ ソース切り替えボタン……(36)
❸ チューナーシステムボタン……(43)
❹ テストトーンボタン（TEST）……(26、27)
❺ サラウンドモードボタン……(30、31)
❻ システムセットアップボタン
（SYSTEM）……(24)
❼ サラウンドパラメーターボタン
（PARA）……(31)
❽ エンターボタン（ENT）……(24)
❾ 入力モードボタン（INPUT）……(36)
❿ カーソルボタン（△▽◁ ▷）……(24)

ご注意

前面または裏面のボタンを強く押すと、それぞれの反対側のボタンも一緒に動作してしまう場合がありますので、ご注意ください。

接続のしかた

この取扱説明書では、対応するすべての音声信号方式や映像信号方式の接続方法を説明しています。接続する機器に合わせていずれかの接続方法をお選びください。
接続方法によっては、本機の設定が必要なものもあります。詳しくは、各接続項目の説明をご覧ください。

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくＬとL、ＲとＲを接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

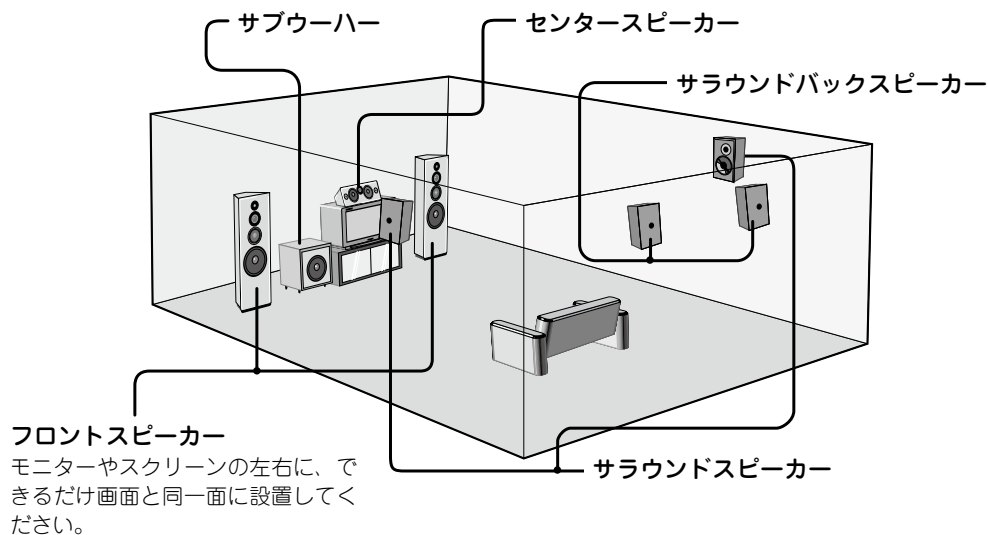
準備

接続に使用するケーブル

ご使用になる機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

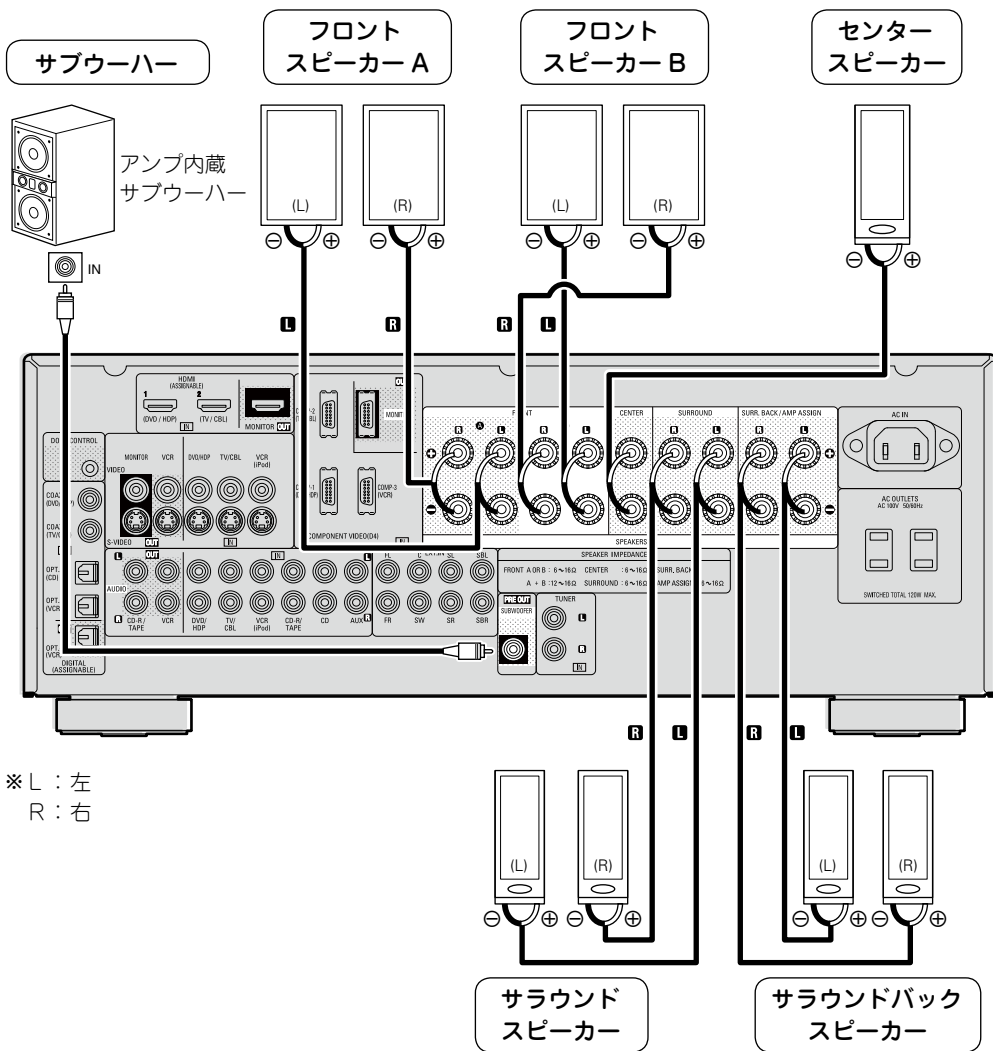
スピーカーの接続

スピーカーの設置

下図は、スピーカー（8台）とモニターを組み合わせた基本的な設置例です。

以下の表は、本機が対応している代表的なスピーカーの構成です。

	フロントA		フロントB		センター	サラウンド		サラウンドバック			サブウーハー
	L	R	L	R		L	R	L	R	1本のみ	
7.1チャンネル（フロントA+B）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○
7.1チャンネル	○	○	−	−	○	○	○	○	○	−	○
6.1チャンネル	○	○	−	−	○	○	○	−	−	○	○
5.1チャンネル	○	○	−	−	○	○	○	−	−	−	○
3.1チャンネル	○	○	−	−	○	−	−	−	−	−	○
2.1チャンネル	○	○	−	−	−	−	−	−	−	−	○
2チャンネル	○	○	−	−	−	−	−	−	−	−	−

スピーカーの接続

【例】7.1 チャンネル（フロント A+B）

※L：左
　R：右

サラウンドバックスピーカーを 1 本のみご使用になる場合は、左チャンネル（SBL）に接続してください。

スピーカーケーブルを接続する

本機とご使用になるスピーカーの左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、＋（赤）、－（黒）をよく確認して、同じ極性を接続してください。

1 スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。

2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。

4 スピーカー端子を右に回してしめる。

バナナプラグを使用する場合

スピーカー端子を強くしめてから、バナナプラグを差し込む。

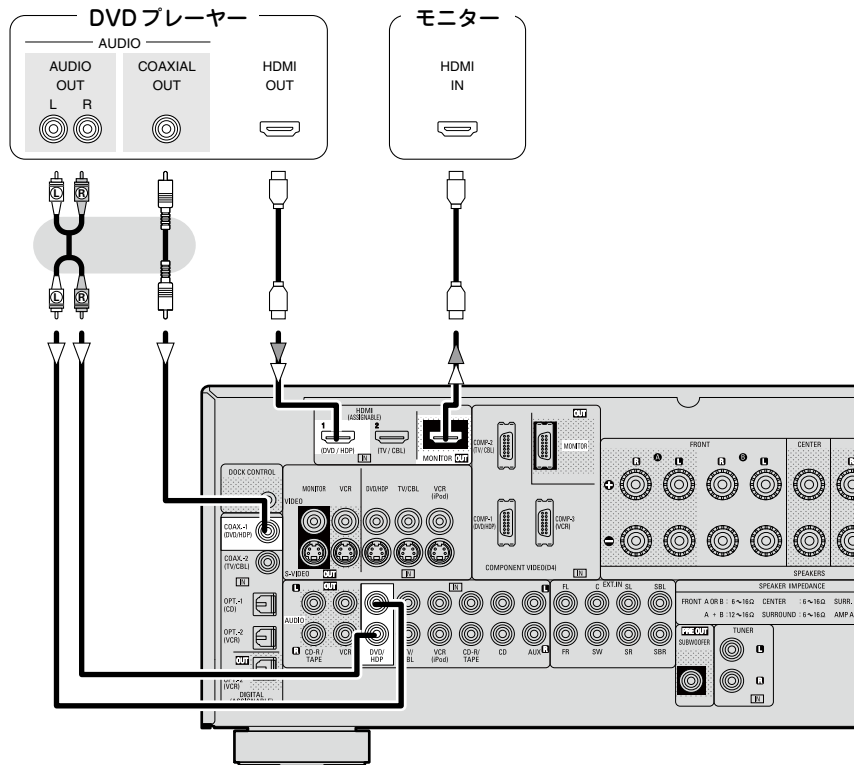
ご注意

- スピーカーは、インピーダンスが 6 ～ 16 Ωのものをお使いください。また、フロントスピーカー A/B を同時に使用する場合は、12 ～ 16 Ωのものをお使いください。
- スピーカーケーブルは、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触すると、保護回路が動作します（☞「保護回路について」）。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

保護回路について

指定されたインピーダンス以下のスピーカー（例：4 Ω）を使用して長時間大音量で再生すると、温度が上昇して保護回路が動作する場合があります。
保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断され、電源表示が赤色で点滅します。このような場合は、電源コードを抜いてからスピーカーケーブルや入力ケーブルの接続を確認してください。また、本機の温度が極端に上がっている場合は、本機が冷えるのを待ち、周囲の通風状態を良くしてください。その後、もう一度電源コードを挿入し、本機の電源を入れ直してください。
本機の周囲の通風や接続に問題がないのにも関わらず保護回路が動作する場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で弊社の修理相談窓口にご連絡ください。

HDMI 端子付き機器

HDMIで接続する場合は、映像および音声をHDMIケーブル1本で伝送することができます。

※ 本機は、HDMI のバージョン 1.3a に対応しています。他のバージョンとは互換性がありますので、HDMI 端子を装備した機器と接続してご使用いただけます。
※ 本機は、30 ビットと 36 ビットの Deep Color に対応しています。
※ 本機は、HDMI ケーブルを使用して、HDMI 出力端子が装備されている機器と接続することができます。
※ 本機は、HDMI のバージョン 1.3a の Deep Color および xvYCC と互換性があります。

ご注意

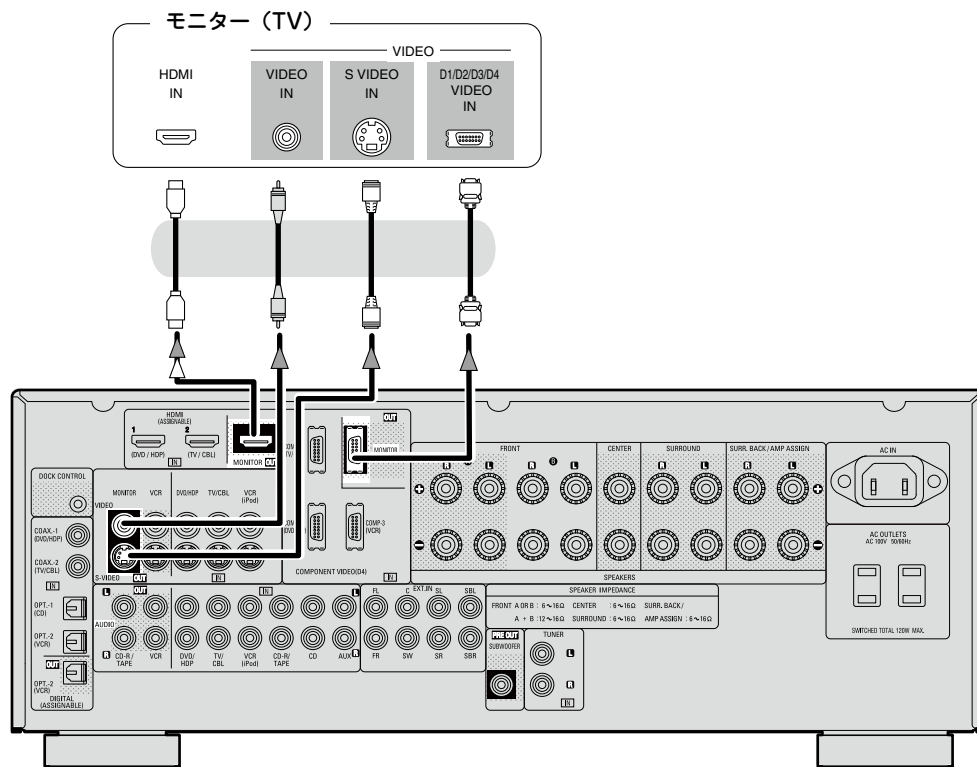
- HDMI 端子から入力されたオーディオ信号を本機で再生することはできません。本機と接続しているスピーカーから音声を出力したい場合は、アナログまたはデジタルオーディオの接続が必要です。
- 本機を HDMI ケーブル経由で他の機器からコントロールすることはできません。
- 入力された映像信号とモニターの解像度が合っていない場合は、映像が出力されません。このような場合は、DVD プレーヤーの解像度をモニターが対応している解像度に合わせてください。
- HDMI 端子の接続には、HDMI ロゴが表記されているケーブル（HDMI 認証品）をお使いください。HDMI ロゴが表記されていないケーブル（HDMI 非認証品）を使用すると、正しく再生できない場合があります。
- モニターまたは DVD プレーヤーが Deep Color に対応していない場合、Deep Color での伝送ができません。
- モニターまたは DVD プレーヤーが xvYCC に対応していない場合、xvYCC での伝送ができません。

- 本機の HDMI 端子から入力されたオーディオおよびビデオ信号は、HDMI 出力端子に出力されます。そのため音声は HDMI で接続されたモニターから出力されますので、本機からの再生音を十分に楽しむために、テレビの音量を下げ、テレビから出力される音を消してください。
- 接続するモニターまたは DVD プレーヤーが DVI-D 端子のみ対応の場合は、HDMI/DVI 変換ケーブルをお使いください。DVI ケーブルをお使いの場合は、音声信号は伝送されません。
- Deep Color 対応の機器と接続する場合は、Deep Color 対応のケーブルをお使いください。

HDMI/DVI 変換ケーブル（アダプター）で接続する場合

- HDMI の映像信号は、DVI と原理的に互換性があります。
  DVI-D 端子付きモニターなどに接続する場合は、HDMI/DVI 変換ケーブルで接続できますが、機器の組み合わせによっては映像が出力されない場合があります。
- HDMI/DVI 変換アダプターを使用して接続する場合、接続したケーブルとの接触不良などにより映像が正しく出力されない場合があります。

モニターの接続

お使いになるケーブルを選んで接続してください。

- 本機の D 端子は、D1 ～ D4（480i、480p、1080i、720p）の映像端子に対応しています。
- 本機の D 端子をコンポーネント変換ケーブルで接続した場合、D 端子から入力された解像度などの識別信号は出力されません。

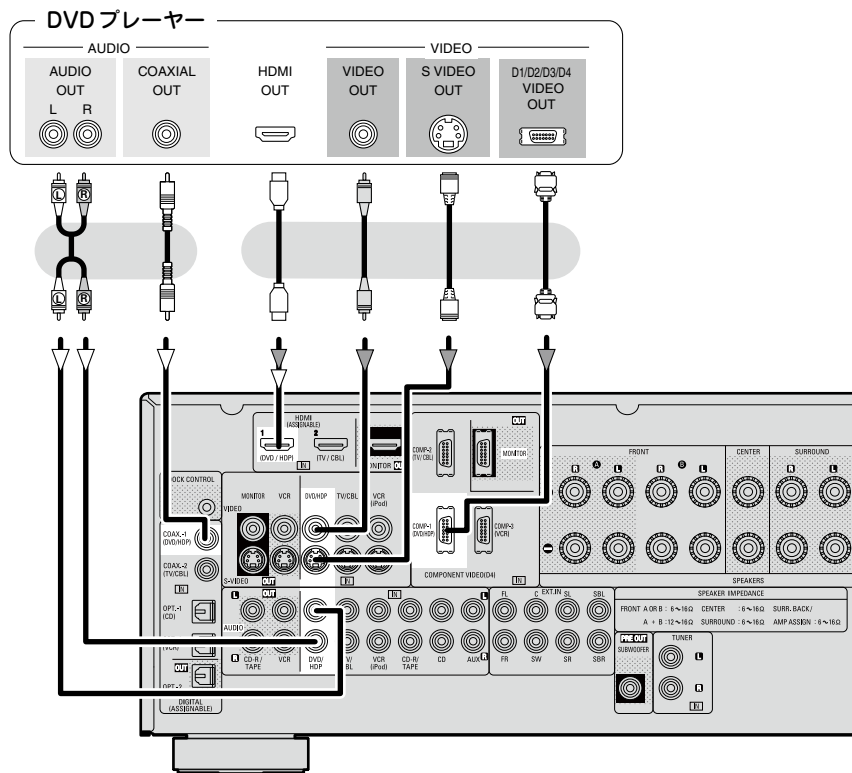
ご注意

- HDMI 入力端子から信号が入力された場合だけ、HDMI モニター出力端子から出力されます。
- 本機の S ビデオ端子（入出力）およびビデオ端子（入出力）は独立した回路構造になっているため、S ビデオ入力端子からのビデオ信号は S ビデオ出力端子からのみ出力し、またビデオ入力端子（黄）からのビデオ信号はビデオ出力端子（黄）からのみ出力します。
- D 端子からの入力信号はビデオ出力端子（黄）または S ビデオ出力端子からは出力しません。

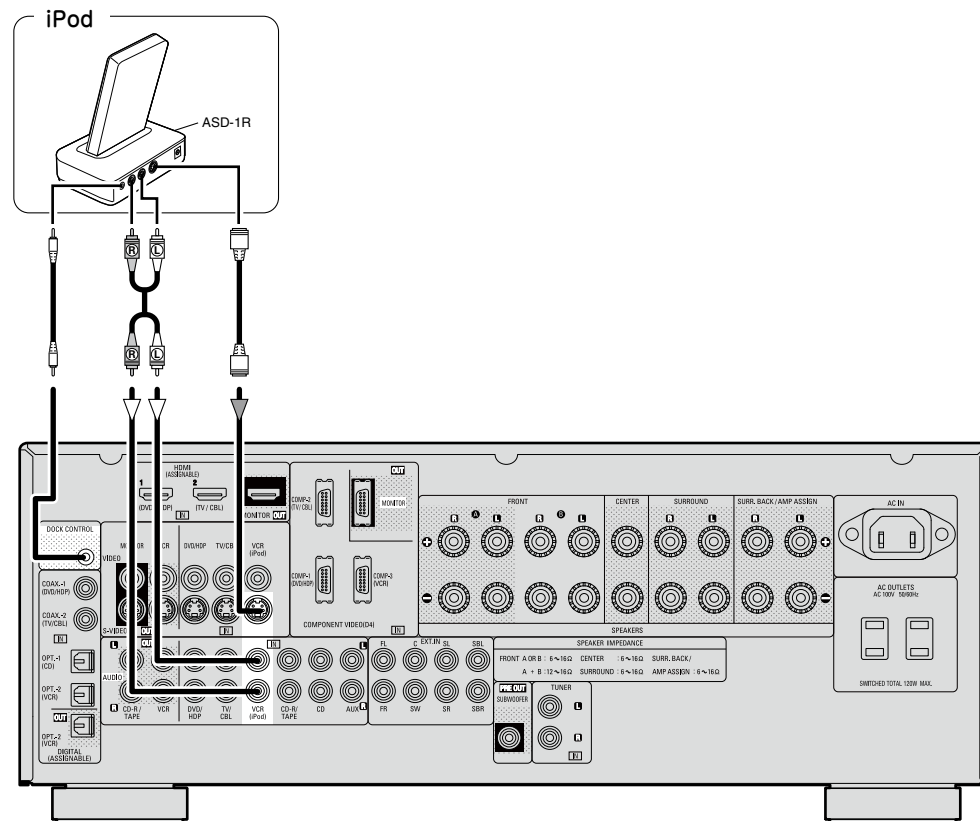
再生機器の接続

左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、入力（IN）、出力（OUT）を確認してから、正しく接続してください。

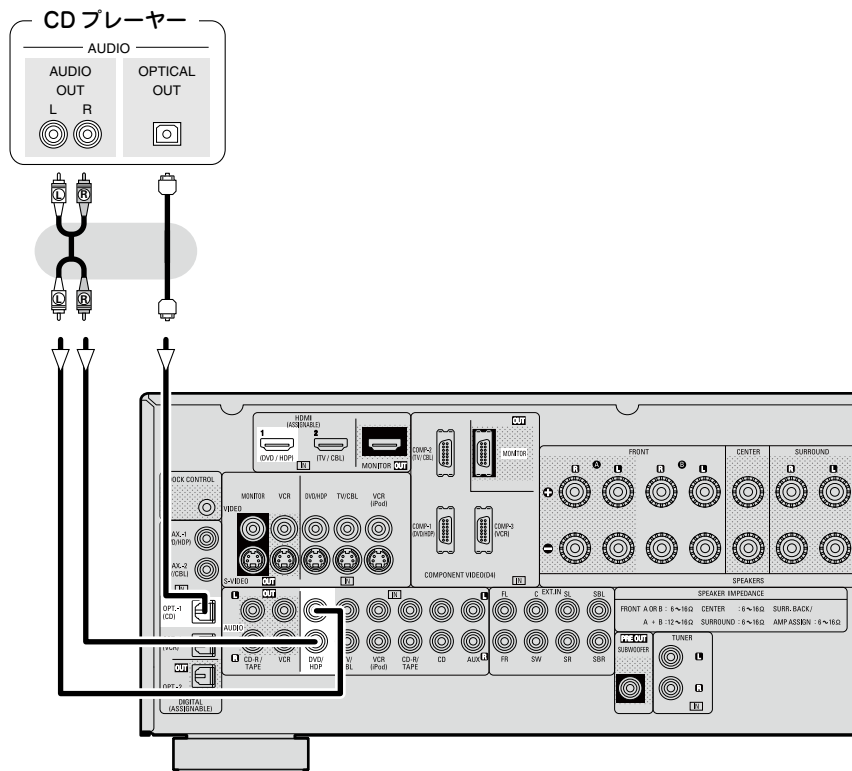
DVD プレーヤー

お使いになるケーブルを選んで接続してください。

- HDP（High-Definition Player）は同じ方法で接続することができます。
- デジタル音声の接続に光伝送ケーブルをお使いになる場合は、“System Setup” - “Input Setup” - “Digital In Assign” の設定をおこなってください（☞27 ページ）。
- 本機の S ビデオ端子（入出力）およびビデオ端子（入出力）は独立した回路構造になっているため、S ビデオ入力端子からのビデオ信号は S ビデオ出力端子からのみ出力し、またビデオ入力端子（黄）からのビデオ信号はビデオ出力端子（黄）からのみ出力します。
- D 端子からの入力信号はビデオ出力端子（黄）または S ビデオ出力端子からは出力しません。

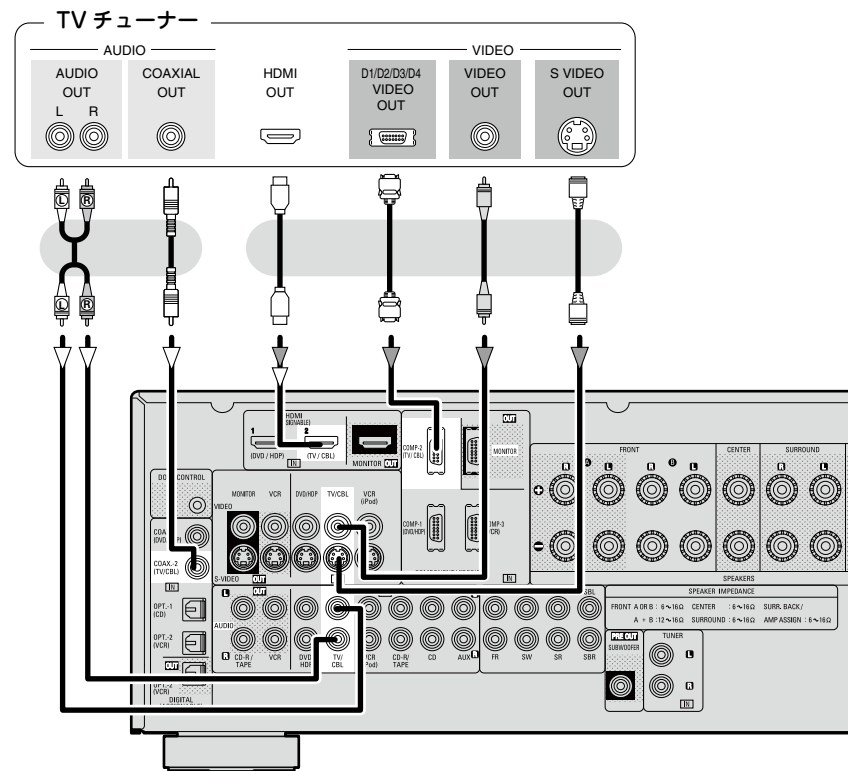
iPod®

本機と iPod の接続には、DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-1R、別売り）をお使いください。この場合、iPod 用コントロールドック側の設定も必要です。詳しくは、iPod 用コントロールドックの取扱説明書をご覧ください。

- 初期状態では、iPod を VCR（iPod）端子に接続してお使いいただけます。
- iPod を VCR（iPod）端子以外に割り当てる場合は、“System Setup” - “Input Setup” - “iPod Assign” の設定をおこなってください（☞28 ページ）。

CD プレーヤー

お使いになるケーブルを接続してください。

デジタル音声の接続に同軸デジタル（75 Ωピンプラグ）ケーブルをお使いになる場合は、“System Setup”-“Input Setup”-“Digital In Assign”の設定をおこなってください（☞27 ページ）。

TV チューナー

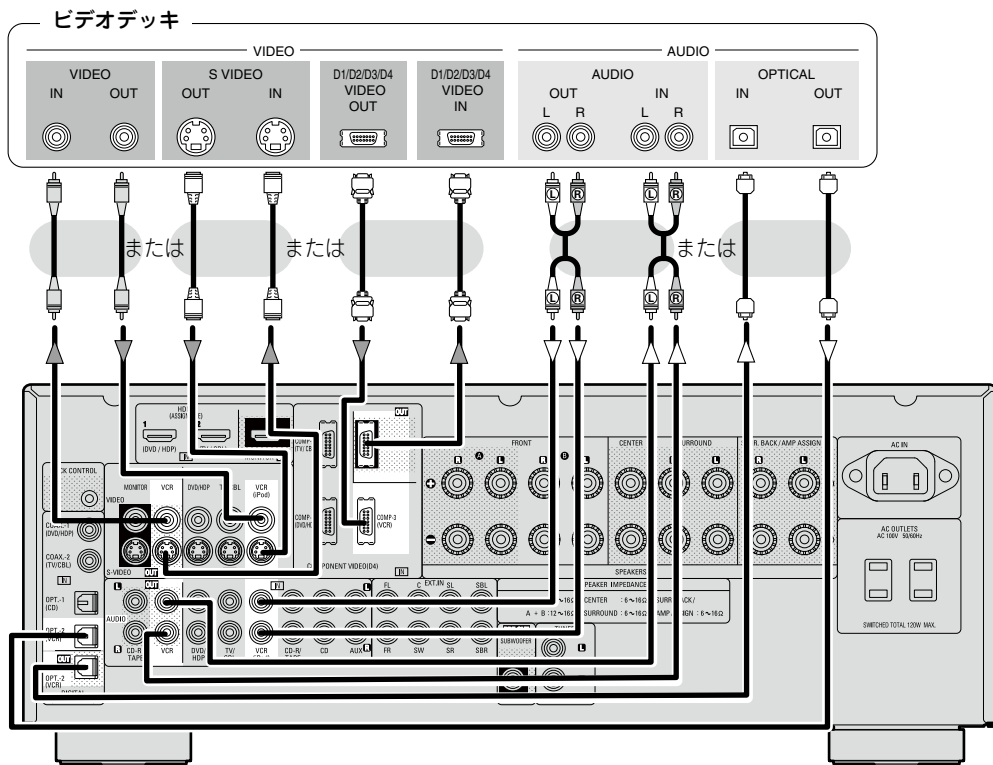
お使いになるケーブルを接続してください。

- デジタル音声の接続に光伝送ケーブルをお使いになる場合は、“System Setup”-“Input Setup”-“Digital In Assign”の設定をおこなってください（☞27 ページ）。
- 本機の S ビデオ端子（入出力）およびビデオ端子（入出力）は独立した回路構造になっているため、S ビデオ入力端子からのビデオ信号は S ビデオ出力端子からのみ出力し、またビデオ入力端子（黄）からのビデオ信号はビデオ出力端子（黄）からのみ出力します。
- D 端子からの入力信号はビデオ出力端子（黄）または S ビデオ出力端子からは出力しません。

録音 / 録画機器の接続

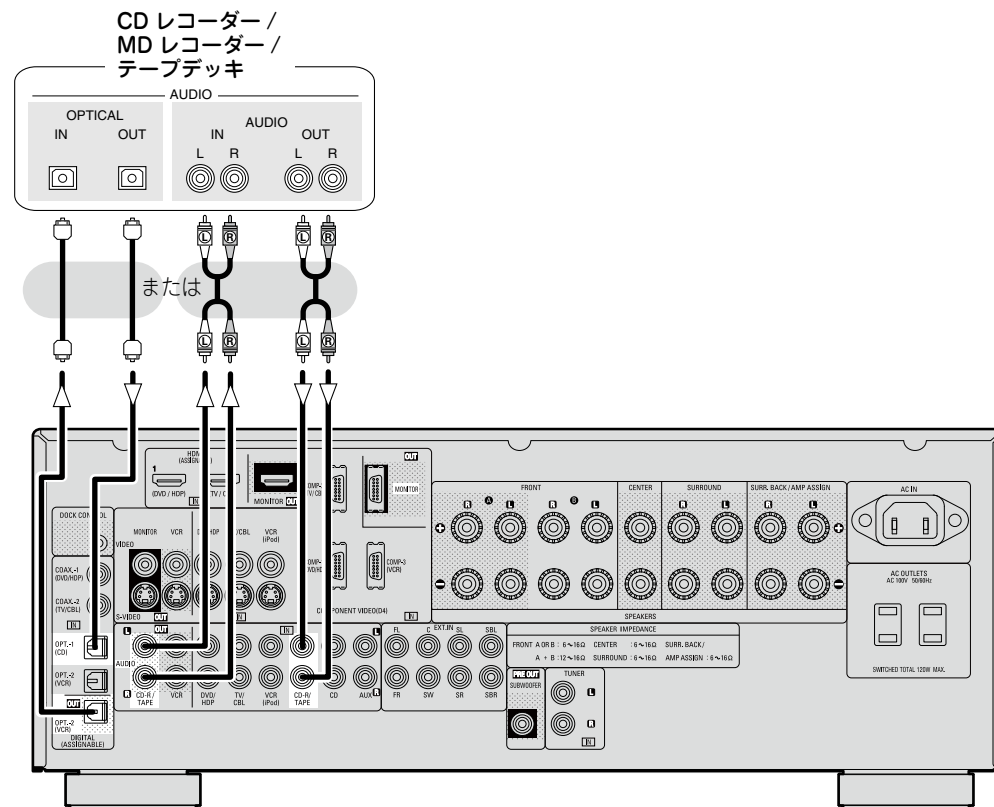
左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、入力（IN）、出力（OUT）を確認してから、正しく接続してください。

ビデオデッキ

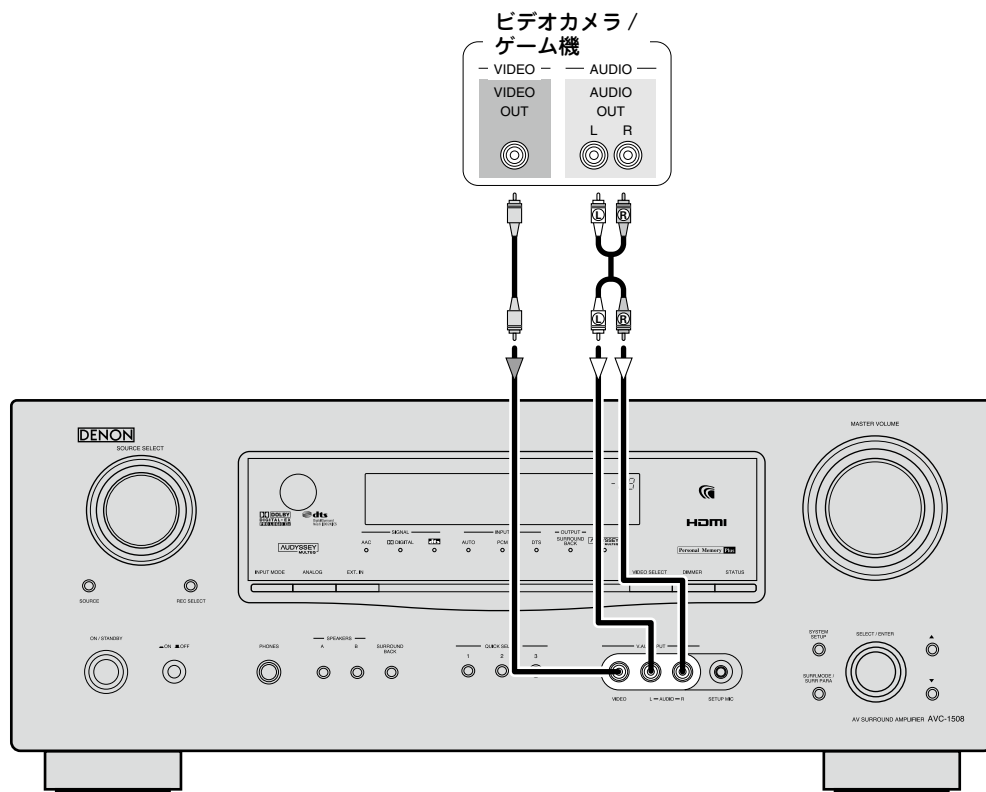
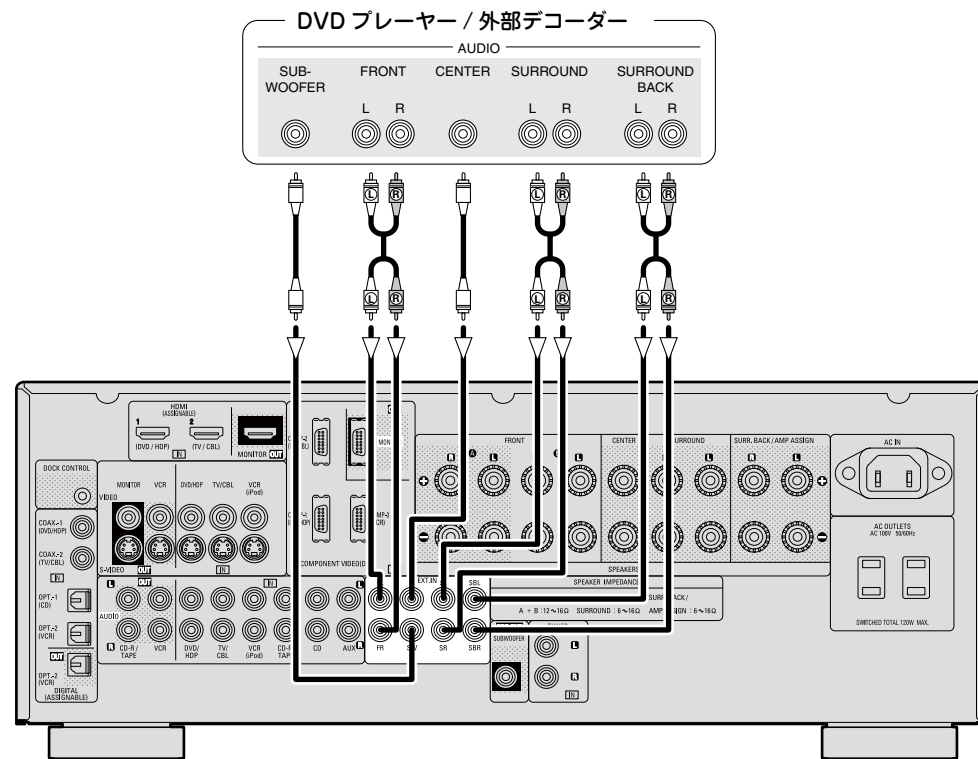
お使いになるケーブルを接続してください。

✎

- 本機を通して録音する場合は、再生機器のケーブルの種類を本機の VCR 出力端子に接続するケーブルの種類と同じにする必要があります。
  例： TV 入力 → S ビデオケーブル：VCR 出力 → S ビデオケーブル
  　　TV 入力 → 映像用 75 Ωピンプラグケーブル：VCR 出力 → 映像用 75 Ωピンプラグケーブル
- 本機の S ビデオ端子（入出力）およびビデオ端子（入出力）は独立した回路構造になっているため、S ビデオ入力端子からのビデオ信号は S ビデオ出力端子からのみ出力し、またビデオ入力端子（黄）からのビデオ信号はビデオ出力端子（黄）からのみ出力します。
- D 端子からの入力信号はビデオ出力端子（黄）または S ビデオ出力端子からは出力しません。

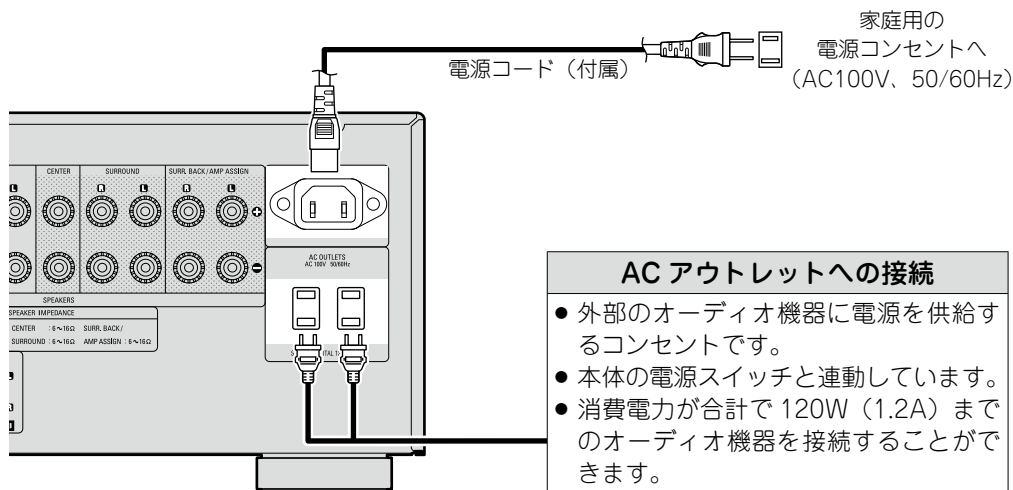
CD レコーダー /MD レコーダー / テープデッキ

お使いになる機器の端子に合わせて、アナログ音声を録音する場合はアナログ接続を、デジタル音声を録音する場合はデジタル接続をしてください。

その他の機器の接続

左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、入力（IN）、出力（OUT）を確認してから、正しく接続してください。

ビデオカメラ / ゲーム機

マルチチャンネル出力端子がある機器

- ハイビジョン（MUSE 3-1 方式）を接続するとき、サラウンドチャンネル出力がモノラルの場合には、別売りのモノ・ステレオケーブルをお使いください。
- 外部入力（EXT. IN）端子に入力されたアナログ入力信号を再生する場合は、本体の **EXT. IN** ボタンまたはリモコンの **INPUT** ボタンを押して“EXT. IN”を選んでください（☞36 ページ）。
- 映像信号は DVD プレーヤーと同じ方法で接続することができます（☞15 ページ）。
- 著作権保護がかかったディスクを再生する場合は、本機の外部入力（EXT. IN）端子と DVD プレーヤーのアナログマルチチャンネル出力端子を接続してください。

電源コードの接続

すべての接続が終わってから電源コードを接続してください。

ご注意

- 電源プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
- ACアウトレットへは、オーディオ機器の電源プラグを差し込み、ドライヤーなどオーディオ機器以外の電源としては使用しないでください。

接続が終わったら

電源を入れる （☞36ページ）

操作のしかた

メニューマップ

Auto Setup（☞21〜23ページ）

※ セットアップマイクを接続したとき

❑ Auto Setup
- Step 1 : Speaker Detection
- Step 2 : Measurement
- Step 3 : Calculation
- Step 4 : Check
- Step 5 : Store

System Setup（☞24〜30ページ）

❑ Speaker Setup（☞25〜27ページ）
- Speaker Configuration
- Subwoofer Mode Setup
- Distance
- Crossover Frequency
- Test Tone

❑ Input Setup（☞27、28ページ）
- HDMI In Assign
- Digital In Assign
- iPod Assign
- Audio Delay
- EXT. IN Subwoofer Level

❑ Option Setup（☞28〜30ページ）
- Amp Assign
- Volume Control
  - · Volume Limit
  - · Power On Level
  - · Mute Level
- Auto Surround Mode
- Room EQ Setup
- Direct Mode Setup
- Remote ID Setup
- Bilingual Mode

Parameter（☞31〜34ページ）

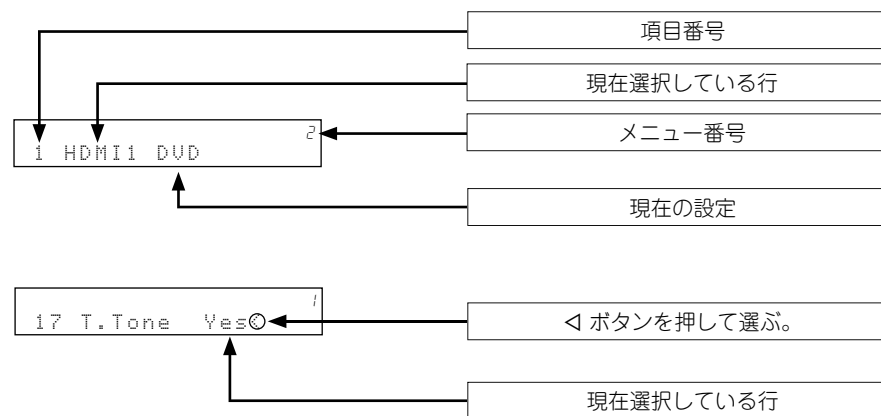
❑ Surround Parameter
- MODE
- CINEMA EQ
- D.COMP
- LFE
- CENTER IMAGE
- PANORAMA
- DIMENSION
- CENTER WIDTH
- DELAY TIME
- EFFECT LEVEL
- ROOM SIZE
- SB CH OUT
- SUBWOOFER ATT.
- Subwoofer
- Default
- Tone Control
  - · Tone Defeat
  - · Bass
  - · Treble
- Room EQ
- RESTORER
- Night Mode

Information（☞35ページ）

❑ Status

❑ Audio Input Signal

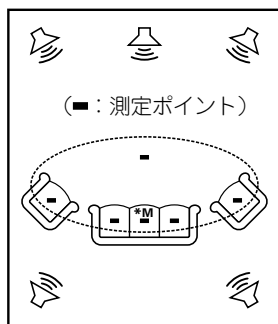
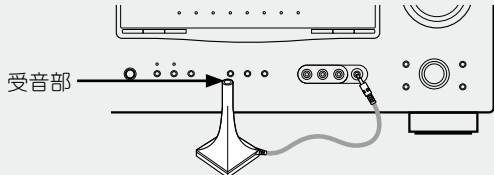
ディスプレイの表示例

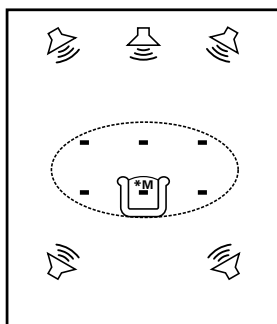
代表的な例を説明します。

Auto Setup
（オートセットアップ）

- 本機のオートセットアップ機能 Audyssey MultEQ® は、リスニングルームの音響特性の測定・解析・設定を自動的におこない、最適なホームシアターオーディオ環境を提供します。
- オートセットアップは付属のセットアップマイク（DM-A405）を使っておこないます。
- 測定は、【例①】に示すように、リスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを連続的に配置しておこないます。最善の結果を得るには、図のように6ヶ所で測定することをおすすめします。
  リスニング環境が【例②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。

メインリスニングポイント（*M）について

メインリスニングポイントとは、リスナーが一人のときに音場のほぼ中心に座る位置をいいます。
Audyssey MultEQ® はこの位置からの測定値を用いて、スピーカー距離、レベル、極性、およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

【例①】

【例②】

✎

設定のマニュアル調整については、25 ～ 27 ページをご覧ください。

準備

1 **<SPEAKER> でフロントスピーカー（フロントA、フロントBまたはフロントA+B）を選ぶ。**

2 **付属のセットアップマイク（校正済み）を本機の SETUP MIC 端子に接続する。**
“Auto Set Start”が表示されます。

3 **セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置し、受音部を耳の高さにする。**

※ セットアップマイクを手で持ちながらオートセットアップをおこなわないでください。
※ セットアップマイクと各スピーカーの間には障害になる物がないようにしてください。
※ セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

サブウーハーを使用するときは、オートセットアップをおこなう前に、次の設定をおこなってください。
- ダイレクトモード機能を搭載しているサブウーハーの場合は、“オン”にして音量と周波数の調節を無効にしてください。
- ダイレクトモード機能がないサブウーハーの場合は、次のように設定してください。
  - 音量　　　　　　　　：“12 時”の位置
  - クロスオーバー周波数：“最大 / 最高周波数”
  - ローパスフィルター　：“オフ”
  - スタンバイモード　　：“オフ”

ご注意

- セットアップマイクは、オートセットアップが終わるまで抜かないでください。
- ヘッドホンを使用している場合は、オートセットアップをおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

Auto Setup（オートセットアップ）

お使いになるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。

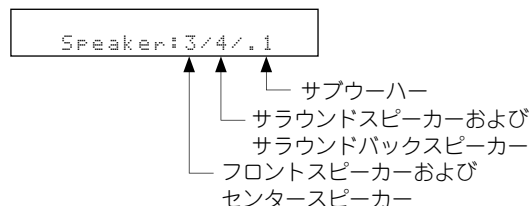
Start（スタート）

◁ を押すと、MultEQ オートセットアップをはじめます。
Audyssey MultEQ® オートセットアップ機能が、各スピーカーとサブウーハーのサイズ、チャンネルレベル、距離、クロスオーバー周波数の最適設定を自動的に計算します。また、Audyssey MultEQ® がリスニングエリア内の音響歪みを補正します。
オートセットアップをはじめると、Audyssey MultEQ は各スピーカーからテストトーンを出力します。
スタートの前に、すべてのスピーカーを接続し、配置してください。

測定中にエラーメッセージを表示した場合は、「エラーメッセージ」をご覧になり、必要な処理をおこなってから再びオートセットアップをおこなってください（☞23 ページ）。

Step1：Speaker Detection（ステップ1：スピーカー構成）

スピーカーの接続の有無と極性を最初の測定位置で検出し、スピーカーのサイズ・チャンネルレベル・距離・クロスオーバー周波数の測定をおこないます。
測定が完了すると、“Sp Detect Check”が表示されます。
“Speaker Detect”の測定が終了したら、“Sp Detect Check”と表示されるので、**ENTER** を押します。

【例】7.1チャンネルシステム

- もし、自分が接続した状態と異なる結果が出た場合や、エラーメッセージが表示された場合は、“Retry”を選び再度測定をおこなってください。
- 再測定後の結果も、自分が接続した状態と異なる結果が出た場合や、再度エラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性がありますので、必ず一度本機の電源を切ってからスピーカーの接続を確かめて、最初から測定をやり直してください。

ご注意

- オートセットアップの測定中は、大きなテストトーンが出力されますが、これは正常な動作です。室内の騒音が大きいとさらにテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクとの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができなくなります。
- 測定中はリスニングルーム内の騒音を抑え、また会話も控えてください。エアコンや騒音を発生する機器の電源をオフにすることをおすすめします。測定値はこれらの騒音に影響を受けることがあります。
- 測定中に本体の **MASTER VOLUME** つまみおよびリモコンの **VOL +/–** ボタンを操作すると、測定を中止します。
- “Step 1”の測定をおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。

Step2：Measurement（ステップ2：測定）

① ▽ で“2nd Start”を選び、◁ を押す。
 • 2ポイント目の測定をします。
② セットアップマイクを3ポイント目に移動し、◁ を押す。
 • 3ポイント目の測定をします。
③ 操作 ② をくり返しおこなう。
 • 残りのポイントの測定をします。

６ヶ所（メインリスニングポイントとその周囲の５ヶ所）で測定します。最善の結果を得るには、**６ヶ所**で測定することをおすすめします。

Step3：Calculation（ステップ3：解析）

“Step 2”で“Calculate”を選ぶと、得られた測定値を自動的に分析し、リスニングルームにおけるスピーカーシステムの特性を決定します。
6 ヶ所の測定が完了すると、“Calculate”が表示されます。
5 ヶ所以下で測定を終了したい場合は、▽ で“Calculate”を選んでください。

解析時間は、接続されたスピーカーの数と測定ポイント数に依存します。スピーカー数が多ければ多いほど、分析に要する時間は長くなります。

ご注意

測定をおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの接続を変更しないでください。変更すると解析結果が無効になります。もし変更した場合は、オートセットアップを再度おこなってください。

Step4：Check（ステップ4：解析結果）

解析が完了すると、解析結果確認（“Parameter Check”）が表示されます。
◁ で測定結果を表示できます。
△▽ で項目を選び、◁ を押す。

フィルター内蔵スピーカー（サブウーハーなど）では、実際の距離と異なる値が表示されることがあります。これはフィルターが信号に電気的遅延を加えているためです。

Step5：Store（ステップ5：保存）

オートセットアップの測定結果を、本機に保存するかキャンセルします。
測定結果を確認後、“Store” が表示されるまで **ENTER** を押し、△▽ で “Store” または “Cancel” を選ぶ。

Store： ◁ を押して、この補正をメモリーに保存します。
Cancel： ◁ を押してこの補正をキャンセルし、測定されたすべてのオートセットアップデータを消去します。

ご注意

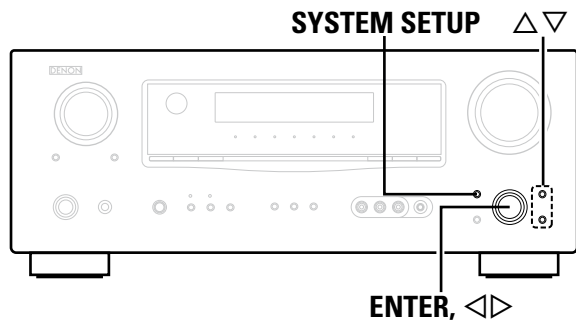
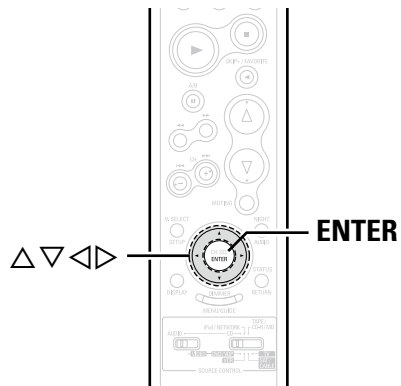
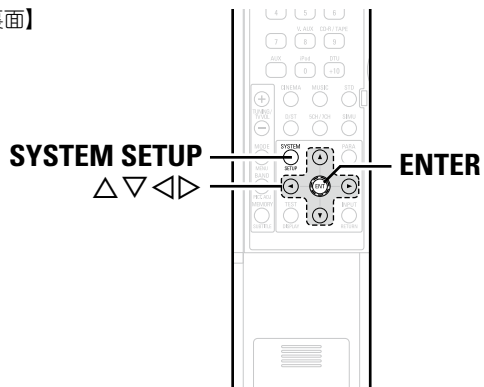
設定の登録中は、電源を切らないでください。

エラーメッセージ

スピーカーの設置や測定環境などにより、オートセットアップを完了できなかった場合に、エラーメッセージが表示されます。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目をチェックし、必要な処理をおこなってください。問題点を修正したら、再びオートセットアップをおこなってください。

エラーメッセージ（例）	原　因	処　理
Mic or Sp:NONE	●付属のセットアップマイクが接続されていません。 ●フロント左スピーカーが正しく検出されません。 ●すべてのスピーカーが検出されません。	●付属のセットアップマイクを本体の **SETUP MIC** 端子に接続してください。 ●スピーカーの接続を確認してください。
Ambient Noise	●部屋の騒音が大きいため、正しく測定できません。 ●スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しく測定できません。	●騒音を発生する機器の電源を切るか、遠ざけてください。 ●周囲がより静かなときに再度試みてください。 ●スピーカーの設置や向きを確認してください。 ●サブウーハーの音量を調節してください。
Caution:Sp None FR	●表示されたスピーカーが検出されませんでした。 ・フロント右スピーカーが正しく検出されません。 ・サラウンドスピーカーの片方のチャンネルしか検出されていません。 ・サラウンドバックスピーカーを 1 台のみ接続している場合に、右チャンネルから検出されました。 ・サラウンドバックスピーカーが検出されましたが、サラウンドスピーカーが検出されません。	●表示されたスピーカーの接続を確認してください。
Caution:Phase SBL	●表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。	●表示されたスピーカーの極性を確認してください。 ●スピーカーによっては、正しく接続されていてもこのエラーメッセージが表示される場合があります。配線が正しければ、“Skip” を選んでください。

再度測定をおこなうには、“Retry” を選んでください。

ご注意　スピーカー接続を確認する前に、必ず電源を切ってください。

【前面】

【裏面】

操作説明のボタン名について

< >：本体のボタン
[ ]：リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

System Setup（システムセットアップ）

いろいろなパラメーターの詳細な設定をおこないます。

操作のしかた

本体でもリモコンでも同じ操作ができます。

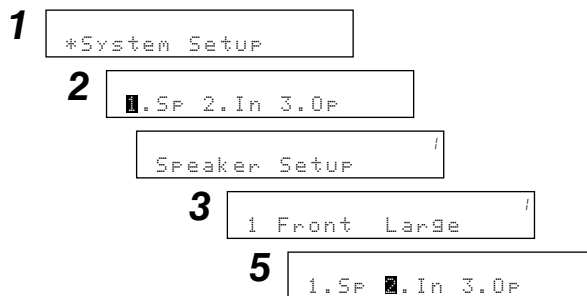
1 **SYSTEM SETUP を押した後に、ENTER を押す。**
“System Setup” メニューが表示されます。

2 **◁ ▷ で設定 / 操作したいメニューを選び、ENTER を押す。**

3 **設定を変更するとき：**
△▽ で変更したい項目を選び、◁ ▷ で設定を変更する。

4 **ENTER または ▽ で新しい項目を設定する。**

5 **SYSTEM SETUP で次のカテゴリーに移行する。**

※システムセットアップモードを解除するときは、もう一度 **SYSTEM SETUP** を押してください。

お買い上げ時の設定（初期設定）の表示例

枠線が付いている項目は、お買い上げ時の設定項目または設定値です。

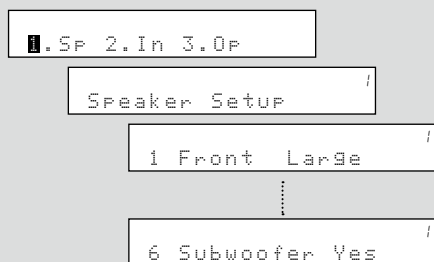
【選択できる項目】 Large Small

Speaker Setup（スピーカーの設定）

スピーカーを手動で設定する場合、またはオートセットアップで設定された内容を変更する場合におこなってください。

1 ~ 6 Speaker Configuration（スピーカーの構成）

スピーカーの有り・無しや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。

【ディスプレイ】

Front Speaker（フロント）

フロントスピーカーの大きさを選びます。

【選択できる項目】 Large Small

Center Speaker（センター）

センタースピーカーの有り・無しや大きさを選びます。

【選択できる項目】 Large Small None

Surround Speaker（サラウンド）

サラウンドスピーカーの有り・無しや大きさを選びます。

【選択できる項目】 Large Small None

Surround Back Speaker（サラウンドバック）

サラウンドバックスピーカーの有り・無しや大きさを選びます。

【選択できる項目】 Large Small None 2spkrs 1spkr

Subwoofer（サブウーハー）

サブウーハーの有り・無しを選びます。

【選択できる項目】 Yes No

Large：低音域を十分に再生できる能力があるスピーカーを使用するときに選びます。

Small：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用するときに選びます。

None：スピーカーを使用しないときに選びます。

Yes：サブウーハーを使用するときに選びます。

No：サブウーハーを使用しないときに選びます。

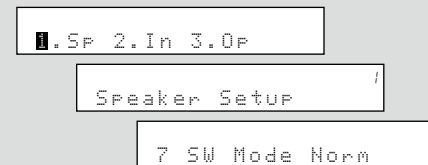
2spkrs **1spkr**：
使用するサラウンドバックスピーカーの数を選びます。

- "Large" と "Small" の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、"Crossover Frequency"（☞26 ページ）で設定した周波数を基準とした低域再生能力で判断してください。
- "Front Speaker" を "Small" に設定すると、"Subwoofer" の設定は自動的に "Yes" になります。
- "Subwoofer" を "None" に設定すると、"Front Speaker" の設定は自動的に "Large" になります。
- "Surround Speaker" を "None" に設定すると、"Surround Back Speaker" の設定は自動的に "None" になります。
- サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用する場合は、左チャンネル（SBL）に接続してください。

7 Subwoofer Mode Setup（サブウーハーモードの設定）

サブウーハーで再生する低音域信号を選びます。

【ディスプレイ】

1.Sp 2.In 3.Op
Speaker Setup
7 SW Mode Norm

【選択できる項目】

LFE (Normal)："Small" に設定したチャンネルの低音域と LFE 信号を再生します。

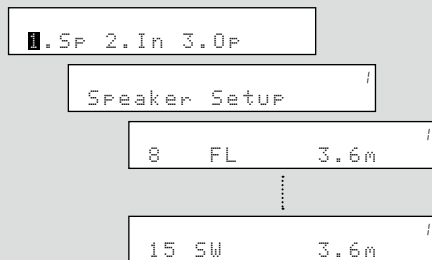
LFE+Main：すべてのチャンネルの低音域信号と LFE 信号を再生します。

- "System Setup" - "Speaker Setup" - "Subwoofer" の設定が "Yes" のときに設定できます。
- 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られる方のモードを選んでください。
- 常にサブウーハーから低音域信号を出力したい場合は、"LFE+Main" を選んでください。

操作のしかた（☞24ページ）

8 ~ 15 Distance（距離）

リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。
設定をおこなう前に、リスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測っておいてください。

【ディスプレイ】

距離の設定

設定したいスピーカーを選び、距離を設定します。
測定した距離に最も近い値に設定してください。

【可変できる範囲】

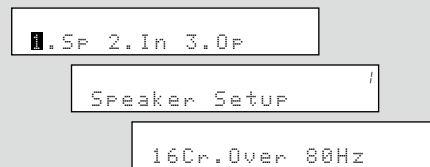
0.0m ~ 18.0m ：0.1m 単位で設定します。

ご注意

リスニングポイントから各スピーカーまでの距離は、6.0m 以下に設定してください。

16 Crossover Frequency（クロスオーバー周波数）

サブウーハーから出力する各スピーカーの低音域信号を何 Hz 以下にするかを選びます。

【ディスプレイ】

【選択できる項目】

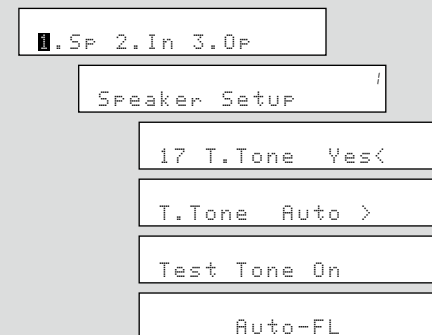
40Hz **60Hz** **80Hz** **90Hz** **100Hz** **110Hz** **120Hz** **150Hz** **200Hz** **250Hz** ：

サブウーハーから出力される各スピーカーの低音域信号を、設定された周波数以下で出力します。
お使いになるスピーカーの低域再生能力に合わせて設定してください。

- この設定は、“System Setup” - “Speaker Setup” の設定で “Small” に設定されているスピーカーがある場合や、“Subwoofer” を “Yes” に設定している場合におこなえます（☞25 ページ）。
- “Small” に設定されたスピーカーの場合、クロスオーバー周波数以下の音はカットして出力されます。カットされた低音域はサブウーハーまたはフロントスピーカーから出力されます。
- クロスオーバー周波数は、通常“80Hz”に設定してください。ただし、小型スピーカーを使用する場合は、より高い周波数に設定することをおすすめします。

17 Test Tone（テストトーン）

すべてのスピーカーからの音量が同じになるように各チャンネルのレベルを調節します。

【ディスプレイ】

Test Tone（テストトーン）

テストトーンの再生方法を選びます。

【選択できる項目】

Auto ：テストトーンを出力するスピーカーを自動的に切り替えます。

Manual ：テストトーンを出力するスピーカーを手動で選びます。

Test Tone Start（テストトーンスタート）

◁ ボタンで “Yes” を選び、◁ ▷ ボタンで “Auto” または “Manual” を選びます。
▽ ボタンを押すと、テストトーンが出力されます。

Auto ：◁ ▷ ボタンで音量を調節します。
Manual：△ ▽ ボタンで調節したいスピーカーを選び、◁ ▷ ボタンで音量を調節します。

調節が終わったら、**ENTER** を押してください。

【可変できる範囲】 **–12dB** ~ **0dB** ~ **+12dB**

リモコンでも操作できます

テストトーンによる調節は、下記の通りリモコンからでもおこなえます。

リモコンでのテストトーンによる調節は“Auto”のみで、STANDARD（Dolby/DTS サラウンド）モード時に有効です。調節したレベルは上記各サラウンドモードに自動的に記憶されます。

① **TEST** ボタンを押す。
テストトーンが各スピーカーより出力されます。

② ◁ ▷ ボタンで各スピーカーの音量が同じになるように調節する。

③ 調節が終わったら、もう一度 **TEST** ボタンを押す。

- “System Setup” - “Surround Back Speaker” の設定が “1spkr” の場合、サラウンドバックスピーカーの表示は “SB” になります (☞25 ページ)。
- “Speaker Configuration（スピーカー構成）” の設定で、“None” に設定されているスピーカーは表示されません。
- “Test Tone” を調節すると、調節された値がすべてのサラウンドモードに対して設定されます。サラウンドモード別にチャンネルレベルを調節する場合は、40 ページをご覧ください。

Input Setup（入力の設定）

入力ソースの選択や入力ソースの再生に関する設定をします。

1, 2	HDMI In Assign
3 ~ 6	Digital In Assign
7	iPod Assign
8	Audio Delay
9	EXT. IN Subwoofer Level

1, 2 HDMI In Assign
（HDMI 入力端子の割り当て）

このソースに割り当てる HDMI 入力端子を選びます。

【ディスプレイ】

【入力端子】 HDMI1 HDMI2

【割り当て可能な入力ソース】

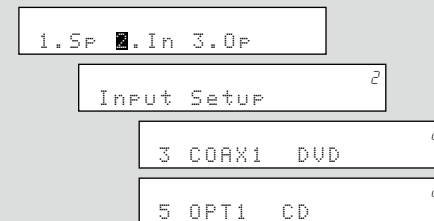
DVD/HDP TV/CBL VCR V.AUX

入力端子	HDMI1	HDMI2
初期設定	DVD/HDP	TV/CBL

- HDMI では、映像信号と音声信号を同時に伝送します（HDMI オーディオ信号は、モニターから出力されます）。
このとき、入力モードを “AUTO” に設定してください。
- アナログ端子、デジタル端子および外部入力（EXT. IN）端子から入力された音声信号は、テレビには出力されません。

3 ~ 6 Digital In Assign
（デジタル入力端子の割り当て）

このソースに割り当てるデジタル入力端子を選びます。

【ディスプレイ】

【入力端子】 COAXIAL1 COAXIAL2 OPTICAL1 OPTICAL2

【割り当て可能な入力ソース】

TUNER CD AUX CDR DVD/HDP TV/CBL VCR V.AUX

入力端子	COAXIAL1	COAXIAL2	OPTICAL1	OPTICAL2
初期設定	DVD/HDP	TV/CBL	CD	VCR

7 iPod Assign
（iPod 用コントロールドックの割り当て）

このソースに iPod 用コントロールドックを割り当てます。

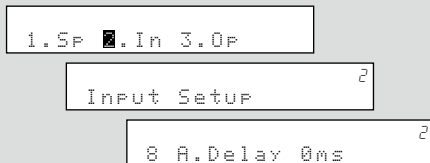
【ディスプレイ】

【割り当て可能な入力ソース】

初期設定では、iPod 用コントロールドックを VCR（iPod）端子に接続してお使いいただけます。

8 Audio Delay（オーディオディレイ）

映像と音声の再生タイミングのずれを補正します。

【ディスプレイ】

音声信号の遅れ時間を設定します。

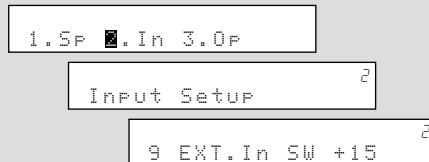
【可変できる範囲】 0 ms ～ 200 ms

映画ソースなどで俳優の口の動きと声の出るタイミングなどを見て調整します。

“EXT. IN”、“DIRECT”および“STEREO”モード（Front Speaker: “Large”、Tone Defeat : “ON”、Room EQ : “OFF”）で再生しているときは、調節できません。

9 EXT. IN Subwoofer Level
（外部入力のサブウーハーレベル）

外部入力（EXT. IN）モードで再生するときのスピーカーの各種設定をします。
使用するプレーヤーに合わせて選びます。

【ディスプレイ】

【選択できる項目】

0dB　+5dB　+10dB ：使用するプレーヤーに合わせて選びます。

+15dB ：推奨レベルです。

Option Setup（その他の設定）

その他の設定をします。

1 Amp Assign
2 ～ 4 Volume Control
5 Auto Surround Mode
6 Room EQ Setup
7 Direct Mode Setup
8 Remote ID Setup
9 Bilingual Mode

1 Amp Assign（アンプの割り当て）

サラウンドバックスピーカーチャンネルのアンプの用途を設定します。

【ディスプレイ】

サラウンドバックのパワーアンプを、フロントチャンネル（“Front A”または“Front B”）のバイアンプ再生用に割り当てて使用することができます。

【選択できる項目】

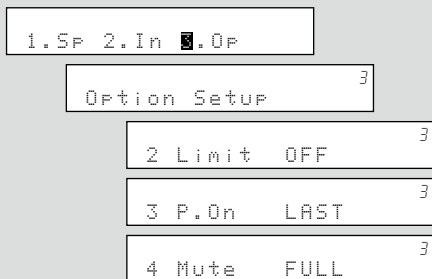
7.1ch　FrontA Bi-Amp　FrontB Bi-Amp

詳しくは、「アンプアサインの設定と接続について」をご覧ください（☞45ページ）。

2 ~ 4 Volume Control（音量の設定）

音量の設定をします。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
Option Setup
2 Limit  OFF
3 P.On   LAST
4 Mute   FULL
```

Volume Limit（音量の上限）

主音量の上限を設定します。

【選択できる項目】

OFF	: 設定しません。
–20dB	: –20dB まで音量を上げることができます。
–10dB	: –10dB まで音量を上げることができます。
0dB	: 0dB まで音量を上げることができます。

Power On Level（電源オン時の音量）

電源を入れたときの音量を設定します。

【選択できる項目】

Last	: 記憶している前回の主音量で再生します。
– – –	: 常に電源を入れたときは消音状態です。
–80dB ~ +18dB	: 電源オン時の音量レベルを 1dB 単位で設定します。

Mute Level（ミューティングレベル）

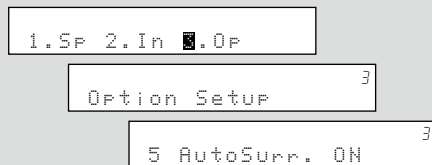
ミューティング時の音量の減衰量を設定します。

【選択できる項目】

Full	: 消音状態になります。
–40dB	: 現在の主音量から 40dB 下げて再生します。
–20dB	: 現在の主音量から 20dB 下げて再生します。

5 Auto Surround Mode
（オートサラウンドモード）

入力信号の種類ごとにサラウンドモードの設定を記憶します。

【ディスプレイ】

【選択できる項目】

ON	: 記憶します。ラストメモリーしたサラウンドモードで自動的に再生します。
OFF	: 記憶しません。入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。

オートサラウンドモードは、次の 3 種類の入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶させることができます。

① アナログや PCM の 2 チャンネル信号（STEREO）
② ドルビーデジタルや DTS または他のマルチチャンネル信号などの 2 チャンネル信号（DOLBY PLIIx Cinema）
③ ドルビーデジタルや DTS、AAC などのマルチチャンネル信号（DOLBY/DTS SURROUND/AAC）

※（ ）内は初期設定。

6 Room EQ Setup（ルーム EQ の設定）

ルーム EQ の設定方法を選びます。

【ディスプレイ】

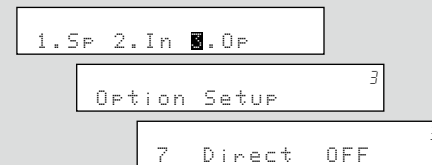
【選択できる項目】

All	:すべてのサラウンドモードに対して設定します。
Assign	:各サラウンドモードごとに設定します。

7 Direct Mode Setup
（ダイレクトモードの設定）

ダイレクトモードで、ルーム EQ を使用するかどうかを設定します。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
Option Setup
7 Direct OFF
```

【選択できる項目】

ON	: ルーム EQ を使用します。
OFF	: 使用しません。

8 Remote ID Setup（リモコン ID の設定）

リモコンの ID を設定します。

【ディスプレイ】

```
1.Sp 2.In 3.Op
Option Setup
8 Remote ID 1
```

【選択できる項目】 **1** **2** **3** **4**

ご注意

付属のリモコン（RC-1076）を使用する場合は、リモート ID を設定する必要はありません。
別売りのリモコン（RC-7000CI など）を使用する場合に設定してください。使用するリモコンと、本機のリモート IDを合わせてください。

9 Bilingual Mode（バイリンガルモード）

AAC ソースやドルビーデジタルソースの二重音声の出力内容を設定します。

【ディスプレイ】

【選択できる項目】

Main：主音量のみ出力します。

Sub：副音量のみ出力します。

Main/Sub：主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。

Main+Sub：主音声と副音声がミックスされて出力します。

- バイリンガルモードは、AAC ソースおよびドルビーソースで、二重音声の情報がある場合のみ有効です。
- 二重音声の情報があるソースを録音する場合は、プレーヤーまたはチューナー側で録音したい音声に切り替えてください。
- “MPEG2 AAC”モードの場合、音声はセンタースピーカーより出力されます。フロントスピーカーで再生したい場合は、“STEREO”モードなどを選んでください。

Surround Modes（サラウンドモード）

スタンダード再生

プログラムソースに合わせて、サラウンド再生を楽しむスタンダードなモードです。

2 チャンネルのソースをサラウンド再生する場合

これらのサラウンドモードを選ぶ場合は、本体の **SELECT/ENTER** つまみまたはリモコンの **STD** ボタンを押してください。ボタンを押すたびに、モードが切り替わります。

❏サラウンドバックスピーカーを使用している場合

【選択できる項目】 **DOLBY PLIIx** **DTS NEO:6**

❏サラウンドバックスピーカーを使用していない場合

【選択できる項目】 **DOLBY PLII** **DTS NEO:6**

DOLBY PLIIx または DOLBY PLII：DOLBY PLIIx または DOLBY PLII でデコードして、サラウンド再生します。

- **Cinema**：映画ソースに適したモードです。
- **Music**：音楽ソースに適したモードです。
- **Game**：ゲームに適したモードです。
- **Pro Logic**：プロロジック再生モードです。PLII デコーダーで再生する場合に選べます。このモードを選ぶと、表示は“DOLBY PL”になります。

DTS NEO:6：DTS　NEO:6 でデコードしてサラウンド再生します。

- **Cinema**：映画ソースに適したモードです。
- **Music**：音楽ソースに適したモードです。

“Cinema”、“Music”、“Game”、“Pro Logic”モードは、“Surround Parameter”-“MODE”で選んでください（☞31 ページ）。

マルチチャンネルのソースを再生する場合（Dolby Digital、DTS、AAC など）

【選択できる項目】

STANDARD：

入力信号のフォーマットに応じてデコードし、サラウンド再生するモードです。
STANDARD モードを選んだときの表示は、入力信号やサラウンドバック出力の再生モードによって変わります。

入力信号		ディスプレイ表示
Dolby Digital ソース	DOLBY DIGITAL（2ch 以外）/ DOLBY DIGITAL EX	DOLBY DIGITAL
		DOLBY DIGITAL EX
		DOLBY DIGITAL+PLIIx CINEMA
		DOLBY DIGITAL+PLIIx MUSIC
DTS Surround ソース	DTS（5.1ch）/ DTS-ES Discrete 6.1 / DTS-ES Matrix 6.1 / DTS 96/24	DTS SURROUND
		DTS+PLIIx CINEMA
		DTS+PLIIx MUSIC
		DTS+NEO:6
		DTS ES MTRX6.1（＊1）
		DTS ES DSCRT6.1（＊2）
		DTS 96/24（＊3）
MPEG-2 AAC	MPEG-2 AAC（5.1ch）	MPEG2 AAC
		AAC+Dolby EX
		AAC+PLIIx CINEMA
		AAC+PLIIx MUSIC
	MPEG-2 AAC（1+1ch）	MPEG2 AAC

＊1：入力信号が“DTS-ES Matrix 6.1”のときに表示されます。
＊2：入力信号が“DTS-ES Discrete 6.1”のときに表示されます。
＊3：入力信号が“DTS 96/24”のときに表示されます。

- 詳しくは、51、52 ページをご覧ください。
- これらのサラウンドモードを選ぶ場合は、本体の **SELECT/ENTER** つまみまたはリモコンの **STD** ボタンを押してください。
- 本体の **SURROUND BACK** ボタンを操作すると、サラウンドバックチャンネルのオン / オフを切り替えることができます。
  本体の **SURROUND BACK** ボタンを操作すると、サラウンドバック表示が点灯します。

MPEG-2 AAC について

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れることがあります。
- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ”になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっている場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

DSP シミュレーション再生

7 通りの DENON オリジナルサラウンドの中から、プログラムソースや視聴するシチュエーションに応じてお好みのモードを選ぶことができます。
サラウンドパラメーター（☞49、50 ページ）を調節することで、よりリアルでパワフルな音場を再現することができます。

【選択できる項目】

5CH/7CH STEREO ＊1 ：ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。

ROCK ARENA ：アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。

JAZZ CLUB ：ライブハウスでのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。

MONO MOVIE ＊2 ：モノラルの映画ソースをサラウンド再生するモードです。

VIDEO GAME ：ビデオゲームのサラウンドに適したモードです。

MATRIX ：ステレオの音楽ソースに広がり感を加えて楽しむモードです。

VIRTUAL ：フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。

＊1：サラウンドパラメーターの “SB CH OUT” が “OFF” のときは、“5CH STEREO” を表示します（☞33 ページ）。
＊2：MONO MOVIE モードでモノラル録音ソースを再生する場合、片チャンネル（左または右）では音が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

- 本体の **SELECT/ENTER** つまみやリモコンの **SIMU** ボタンを押してサラウンドモードを切り替えることもできます。
- 再生するプログラムソースによっては、十分な効果が得られない場合があります。このような場合は、各モードを試してお好みの音場でお楽しみください。

ステレオ再生

【選択できる項目】

STEREO ：

音質調節ができるステレオ再生用のモードです。
フロント左 / 右スピーカーとサブウーハーから音声が出力されます。

ダイレクト再生

【選択できる項目】

DIRECT ：

音質調節回路を通さず、高音質で再生するモードです。
入力信号のチャンネルのまま音声を出力します。
DIRECT モードを選んだときの表示は、入力信号によって変わります。

入力信号	ディスプレイ表示
アナログ信号 PCM（2ch） DOLBY DIGITAL ソース DTS ソース その他の 2ch のデジタル信号	DIRECT

- 詳しくは、51、52 ページをご覧ください。
- これらのサラウンドモードを選ぶ場合は、本体の **SELECT/ENTER** つまみまたはリモコンの **D/ST** ボタンを押してください。ボタンを押すたびに、モードが切り替わります。

Parameter（パラメーター）

Surround Parameter（サラウンドパラメーター）

音場効果を調節します。
調節できるパラメーターは、各サラウンドモードごとに異なります（☞49、50 ページ）。

① 本体の **SURR. PARA** ボタンまたはリモコンの **PARA** ボタンを押す。
② △▽ ボタンで項目を選び、◁ ▷ ボタンで設定する。

MODE（モード）

再生するソースに合わせてモードを選びます。

❏PLⅡx または PLⅡ モード時

【選択できる項目】 **CINEMA** **MUSIC** **GAME** **PL**＊

＊： PLⅡ モードのときに選べます。

❏DTS NEO:6 モード時

【選択できる項目】 **CINEMA** **MUSIC**

CINEMA :映画ソースに適したモードです。

MUSIC :音楽ソースに適したモードです。

GAME :ゲームに適したモードです。

PL :ドルビープロロジック再生モードです。

“MUSIC” モードは、ステレオ音楽成分を多く含む映画ソースにも効果的です。

CINEMA EQ（シネマＥＱ）

映画のセリフの高域成分をやわらげ、聴きやすくします。

【選択できる項目】

ON : CINEMA EQ を使用します。

OFF : CINEMA EQ を使用しません。

D.COMP

ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を適度に圧縮します。

【選択できる項目】

OFF : ダイナミックレンジを圧縮しません。

LOW : 調節量を設定します。

MID : 調節量を設定します。

HIGH : 調節量を設定します。

DTS ソースを再生する場合は、対応するソフトのみ表示されます。

LFE

低域信号（LFE）レベルの調節をします。

【可変できる範囲】 –10dB ～ 0dB

各プログラムソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。

•ドルビーデジタルソース：“0dB”
•DTS の映画ソース：“0dB”
•DTS の音楽ソース：“–10dB”

CENTER IMAGE（センターイメージ）

センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。

【可変できる範囲】 0.0 ～ 0.3 ～ 1.0

PANORAMA（パノラマ）

フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。

【選択できる項目】 ON OFF

DIMENSION（ディメンション）

音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。

【可変できる範囲】 0 ～ 3 ～ 6

CENTER WIDTH（センター幅）

センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。

【可変できる範囲】 0 ～ 3 ～ 7

DELAY TIME（ディレイタイム）

遅延時間を調節し、音場イメージの大きさを広げます。

【可変できる範囲】 0 ms ～ 30 ms ～ 300 ms

EFFECT LEVEL（エフェクトレベル）

エフェクト信号の大きさを調節します。

【可変できる範囲】 1 ～ 10 ～ 15

サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。

ROOM SIZE（ルームサイズ）

音場の広がり感のイメージを選びます。

【選択できる項目】

small : 小さな音場空間のイメージ。

med. s :

medium :

med. l :

large : 大きな音場空間のイメージ。

ご注意

“ROOM SIZE”は、再生する部屋の大きさを表わすものではありません。

SB CH OUT（マルチチャンネルソースの場合）

サラウンドバックチャンネルの再生方法を選びます。

【選択できる項目】

OFF：サラウンドバックチャンネルは再生されません。

NON MTRX：サラウンドチャンネルと同じ信号がサラウンドバックチャンネルから再生します。

MTRX ON：サラウンドチャンネル信号をデジタルマトリックス処理し、サラウンドバックチャンネルから再生します。

PLIIx CINEMA ＊1：Dolby Pro LogicIIx Cinema モードでデコードし、サラウンドバック信号を再生するモードです。

PLIIx MUSIC ＊2：Dolby Pro LogicIIx Music モードでデコードし、サラウンドバック信号を再生するモードです。

ES MTRX ＊3：DTS 信号を再生する場合にサラウンドバック信号をデジタルマトリックス処理をして再生するモードです。

ES DSCRT ＊4：DTS 信号でディスクリート 6.1ch ソースである認識信号が含まれている場合にソースに含まれているサラウンドバック信号を再生するモードです。

＊1: “System Setup” – “Speaker Setup” の設定で、“Surround Back Speaker”が“2spkrs”のときに選べます（☞25 ページ）。
＊2: “System Setup” – “Speaker Setup” の設定で、“Surround Back Speaker” が “2spkrs” または “1spkr” のときに設定できます。
＊3: DTS ソースを再生しているときに選べます。
＊4: ディスクリート 6.1 チャンネルの信号の識別信号が含まれている DTS ソースを再生しているときに選べます。

SB CH OUT（2 チャンネルソースの場合）

サラウンドバックスピーカーを使うか使わないかを設定します。

【選択できる項目】

ON：サラウンドバックを使用する再生をします。

OFF：サラウンドバックを使用しない再生をします。

本体の **SURROUND BACK** ボタンでも操作できます。

SUBWOOFER ATT.（サブウーハーアッテネーター）

外部入力（EXT.IN）端子使用時のサブウーハーチャンネルのレベルを抑えます。

【選択できる項目】

ON：サブウーハーチャンネルからの入力を減衰します。

OFF：サブウーハーチャンネルからの入力を減衰しません。通常はこのモードでお使いください。

オーディオ信号を再生したときに、サブウーハーチャンネルのレベルが大きいと感じる場合は、“ON” に設定してください。

Subwoofer（サブウーハー）

サブウーハー出力をするかしないかを設定します。

【選択できる項目】

ON：サブウーハー出力を使用します。

OFF：サブウーハー出力を使用しません。

Default（初期化）

設定を初期化します。

Tone Control（トーンコントロール）

トーンを調節します。

Tone Defeat（トーンデフィート）

トーンの調節をおこなわない場合に設定します。

【選択できる項目】

ON：トーンの調節をしないで再生します。

OFF：低音、高音のトーンを調節できます。

“DIRECT” モード中は、トーンの調節ができません。

Bass（低音）

低音のトーンを調節します。

【可変できる範囲】 **–14dB ~ 14dB**

Treble（高音）

高音のトーンを調節します。

【可変できる範囲】 **–14dB ~ 14dB**

“Bass” および “Treble” は、“Tone Defeat” の設定が “OFF” のときに設定できます。

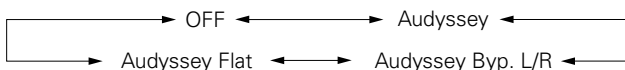
Room EQ（ルーム EQ）
視聴環境に合わせて、お好みのルームイコライザーの補正効果を選びます。

【選択できる項目】

Audyssey：すべてのスピーカーの周波数特性を最適化します。

Audyssey Byp. L/R：フロントスピーカー以外のスピーカーの周波数特性を最適に補正します。

Audyssey Flat：フロント左右スピーカーを除くスピーカーの周波数特性を最適化します。

OFF：イコライザーを使用しません。

- “Audyssey”を選んだときには、“Audyssey MultEQ”表示が緑色に点灯します。
- “Audyssey Byp. L/R” または “Audyssey Flat” を選んだとき、またはオートセットアップの測定結果を変更したときには、“Audyssey MultEQ”表示が赤色に点灯します。

- オートセットアップをおこなった後に、“Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R”および“Audyssey Flat”を選ぶことができます。
- オートセットアップで“None”と判定されたスピーカーの設定を変更した場合は、“Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R”および“Audyssey Flat”を選ぶことはできません。再度測定してください。
- ヘッドホン使用時、“Room EQ”は“OFF”になります。

RESTORER
圧縮音声を圧縮前の状態に復元し、低域と高域の量感を補正して豊かに再生します。

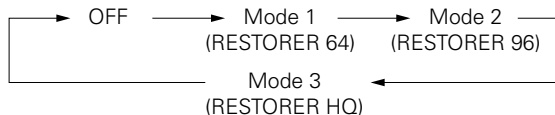
【選択できる項目】

OFF：
RESTORER を使用しません。

Mode1（RESTORER 64）:
高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。

Mode2（RESTORER 96）:
圧縮音声全般に対して、低域と高域を共に適切に補正します。

Mode3（RESTORER HQ）:
高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。

“iPod”の初期設定は、“Mode3”です。その他は、すべて“OFF”に設定されています。

RESTORER機能について

- MP3、WMA（Windows Media Audio）や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。RESTORER は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。
- アナログ入力や PCM 信号（fs = 44.1/48kHz）が入力されたときにサラウンドパラメーター内に表示され、設定することができます。

Night Mode（ナイトモード）
夜間に小音量で音声を聞くときに設定します。

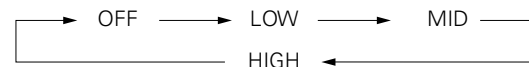
リモコンの **NIGHT** ボタンを押す。

【選択できる項目】

OFF：設定しません。

LOW：調節量を弱く設定します。

MID：調節量を標準に設定します。

HIGH：調節量を強く設定します。

Information（情報）

STATUS ボタンを押すと、ダイレクトに呼び出すことができます。

1 Status
2 Audio Input Signal

1 Status（現在の設定）

現在の設定状態を表示します。

【確認できる項目】

Surround Mode（サラウンドモード）

Select Source（選択ソース） **Video Select**（ビデオセレクト）

Digital Assignment（デジタル端子の割り当て）

Audio Delay（オーディオディレイ）

TONE DEFEAT（音質調整） など

表示される設定内容の説明については、それぞれの設定の項目をご覧ください。

2 Audio Input Signal（音声入力信号）

音声入力信号の情報を表示します。

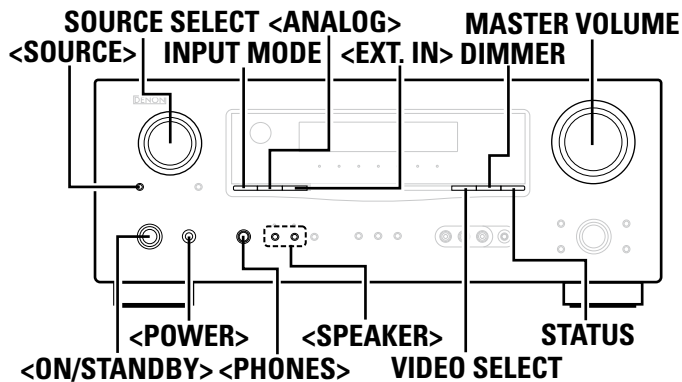
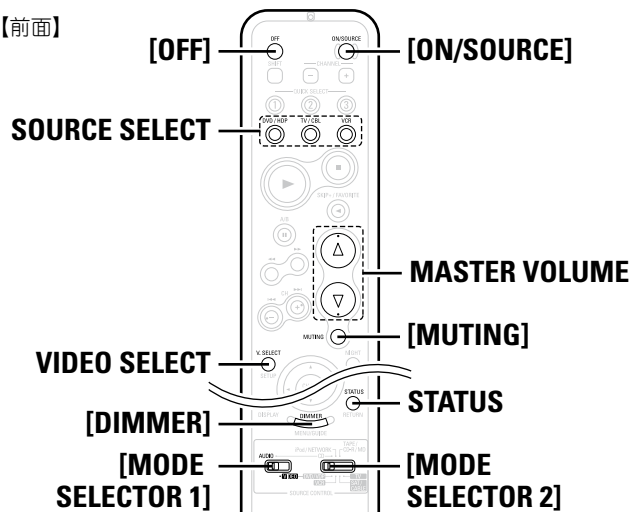
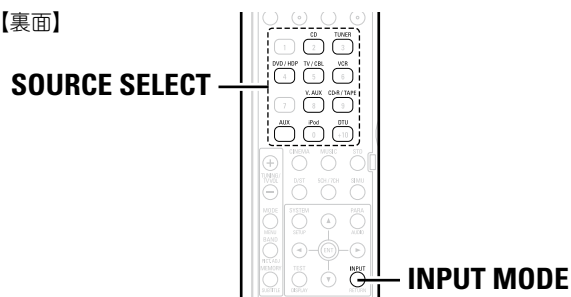
【確認できる項目】

Surround Mode	：設定されているサラウンドモードを表示します。
SIGNAL	：入力信号の種類を表示します。
fs	：入力信号のサンプリング周波数を表示します。
Format	：入力信号のチャンネル数（フロント / サラウンド /LFE の有無）を表示します。
Offset	：ダイアログノーマライゼーションの補正値を表示します。

ダイアログノーマライゼーション機能について

ドルビーデジタルソースの再生中に、自動的に動作します。
この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。
補正値は、**STATUS** ボタンで確認できます。

Offset -4dB

数字は、標準レベルに補正した場合の補正値です。

再生のしかた

準備

電源を入れる

1 **<POWER> を押す。**
電源表示が赤色に点灯して、電源がスタンバイ状態になります。

2 **<ON/STANDBY> または [ON/SOURCE] を押す。**
電源表示が緑色に点滅して、電源が入ります。

電源を切る

① **<ON/STANDBY>** または **[OFF]** を押す。
電源がスタンバイ状態になります。
② **<POWER>** を押す。
電源表示が消灯して、電源が切れます。

ご注意
電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、**<POWER>** を押して電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

入力ソースを選ぶ

本体での操作

<SOURCE SELECT> を回す。

入力ソースに“Rec Select”を選んでいる場合は、**<SOURCE>** を押してから **<SOURCE SELECT>** を回してください。

リモコンでの操作

[SOURCE SELECT] を押す。
ダイレクトに入力ソースを選ぶことができます。

入力モードを設定する

INPUT MODE を押す。
入力モード（AUTO、PCM、DTS）表示が点灯します。

※ “ANALOG”を選ぶ場合は **<ANALOG>**、“EXT. IN”を選ぶ場合は **<EXT. IN>** を押してください。

【選択できる項目】

AUTO	：デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。
PCM	：PCM 信号が入力されたときだけデコードして再生します。
DTS	：DTS 信号が入力されたときだけデコードして再生します。
ANALOG	：アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。
EXT. IN	：外部入力（EXT. IN）端子からの入力信号のみを再生します。

- デジタル信号が正しく入力されると、ディスプレイの“DIGITAL”表示が点灯します。“DIGITAL”表示が点灯しない場合は、デジタル入力端子の割り当てや接続を確認してください。
- 入力モードが“EXT. IN”の場合は、サラウンドモードの設定ができません。
- “PCM”や“DTS”は、それぞれの入力信号を再生するときのみ設定してください。

再生中にできる操作

主音量の調節

<MASTER VOLUME> を回すか、[MASTER VOLUME] を押す。

一時的に音を消す（ミューティング）

[MUTING] を押す。

解除するときは、もう一度 **[MUTING]** を押してください。主音量を調節しても解除することができます。

ヘッドホンで音を聴く

<PHONES> に、ヘッドホンのプラグを差し込む。

自動的にスピーカーおよびプリアウト端子から音が出なくなります。

ご注意

ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げ過ぎないようにご注意ください。

フロントスピーカーを切り替える

<SPEAKER> を押す。

ビデオセレクト機能

音声を聞きながら映像の入力ソースを切り替えます。

好きな映像が表示されるまで VIDEO SELECT を押す。

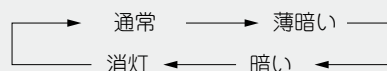
※解除する場合は、**VIDEO SELECT** を押して“SOURCE”を選んでください。

今再生しているプログラムソースなどを確認する

STATUS を押す。

ディスプレイに、現在のプログラムソースや各種設定を表示します。
詳しくは、「Information」をご覧ください（☞35 ページ）。

ディスプレイの明るさを切り替える（ディマー）

DIMMER を押す。

映像機器や音声機器の再生

基本操作

1 準備をする。

① DVD や CD などのソフトをセットする。
（☞ 各機器の取扱説明書）
② 映像機器を再生する場合は、モニターの入力を切り替える。
（☞ モニターの取扱説明書）

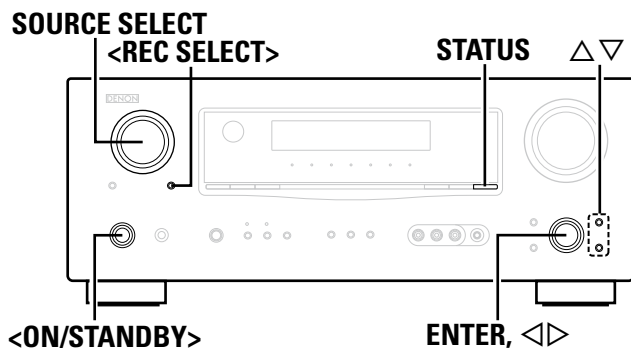
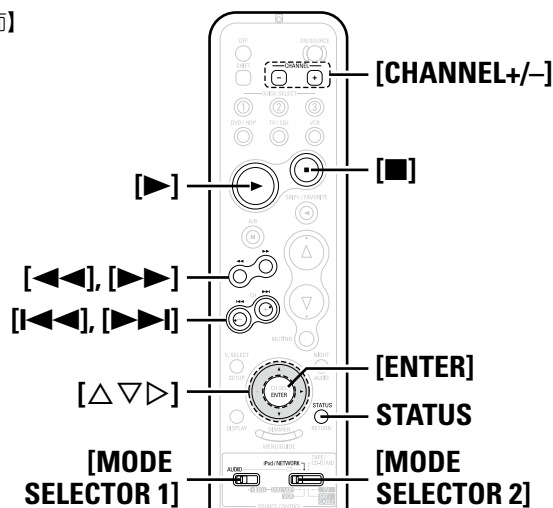
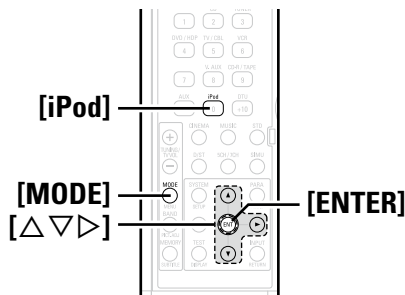
2 <SOURCE SELECT> を回すか、[SOURCE SELECT] を押して、本機の入力ソースを切り替える。

3 [MODE SELECTOR 1] を“AUDIO”または“VIDEO”に設定する。

（☞41 ページ「リモコン操作」）

4 操作したい機器の [MODE SELECTOR 2] を設定する。

5 再生をはじめる。

（☞ 各機器の取扱説明書）

操作説明のボタン名について

<　　　>：本体のボタン
[　　　]：リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

iPod® を再生する

iPod 用コントロールドック（ASD-1R、別売り）を使用することにより、iPod の音楽を再生することができます。また、リモコンでも操作することができます。

Made for iPod　iPodは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.,の商標または登録商標です。

※ iPod は、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

基本操作

1 準備をする。

① DENON 製 iPod 用コントロールドックに、iPod をセットする。
（☞iPod 用コントロールドックの取扱説明書）
② iPod 用コントロールドックの入力を割り当てる。

“System Setup” – “Input Setup” – “iPod Assign”（☞28ページ）

2 <SOURCE SELECT> を回すか、[iPod] を押して、操作 1- ②で割り当てた入力ソースを選ぶ。

Remote iPod

※ 上記の画面が表示されない場合は、iPodが正しく接続されていない可能性があります。再度接続をやり直してください。

3 [MODE SELECTOR 1] を“AUDIO”、[MODE SELECTOR 2] を“iPod/NETWORK”に設定する。

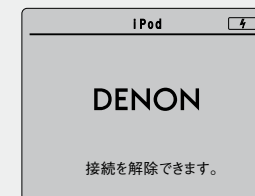
（☞41 ページ「リモコン操作」）

- お買い上げ時は、iPod用コントロールドックをVCR（iPod）端子に接続してお使いいただけます。
- 圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をするには、RESTORERモードをおすすめします（☞34ページ）。お買い上げ時は“Mode3”になっています。
- iPodは、**<ON/STANDBY>** で本機の電源をスタンバイ状態にしてから、取り外してください。iPod　dockの入力を割り当てていない入力ソースに切り替えても、iPodを取り外すことができます。

ご注意

- iPodの種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一、iPodのデータが消失または損傷しても、弊社は一切責任を負いません。

Browse モードで音楽を聴く

1 [MODE] を 2 秒以上長押しして、Remote モードから Browse モードに切り替える。

（iPod の画面 ）

2 [△▽] でメニューを選び、[ENTER] または [▷] で再生したい音楽ファイルを選ぶ。

3 [ENTER] または [▷] を押す。
再生がはじまります。

一時停止するには
再生中に **ENTER** または **[▶]** を押す。
もう一度押すと、再生を再開します。

早送りや早戻しするには
再生中に △（早戻し）または ▽（早送り）を長押しするか、**[◀◀]** または **[▶▶]** を押す。

頭出しするには
再生中に △（前の曲の頭出し）または ▽（次の曲の頭出し）を押すか、**[I◀◀]** または **[▶▶I]** を押す。

停止するには
再生中に **ENTER** を長押しするか、**[■]** を押す。

リピート再生するには
[CHANNEL –] を押す。

【選択できる項目】 **All** **One** **OFF**

シャッフル再生するには
[CHANNEL +] を押す。

【選択できる項目】 **Albums** **Songs** **OFF**

Browse モードとリモートモードを切り替えるには
[MODE] を長押しする。

- 再生中に **STATUS** を押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認できます。
- 本機は、フォルダ名とファイル名をタイトルのように表示することができます。対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。

iPod の静止画像やビデオを見る
iPod に保存してある写真やビデオのデータをモニターで見ることができます。（スライドショーやビデオ機能がある iPod のみ）

1 **[MODE] を長押しして、Remoteモードにする。**

2 **iPodの画面を見ながら[△ ▽]を押して、“写真”または“ビデオ”を選ぶ。**

3 **再生したい画像が表示されるまで、[ENTER]を押す。**

iPod の写真データやビデオデータをモニターに映し出すには、iPod の“スライドショー設定”または“ビデオ設定”の“TV 出力”を“オン”に設定する必要があります。詳しくは、iPod の取扱説明書をご覧ください。

その他の操作や機能

その他の操作

外部機器での録音 / 録画（REC OUT モード）
再生中の曲を聴きながら、別のプログラムソースを録音 / 録画することができます。

1 **<REC SELECT> を押す。**

2 **<SOURCE SELECT> を回して、録音/録画したい入力ソースを選ぶ。**
“REC”および選んだソース表示が点灯します。

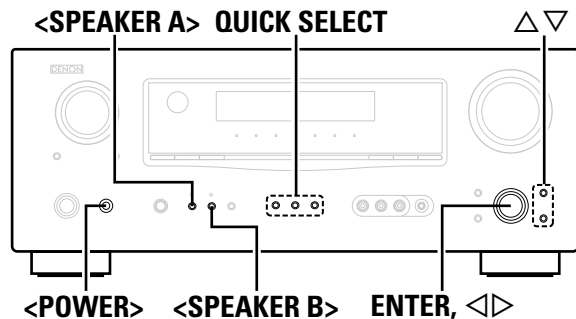
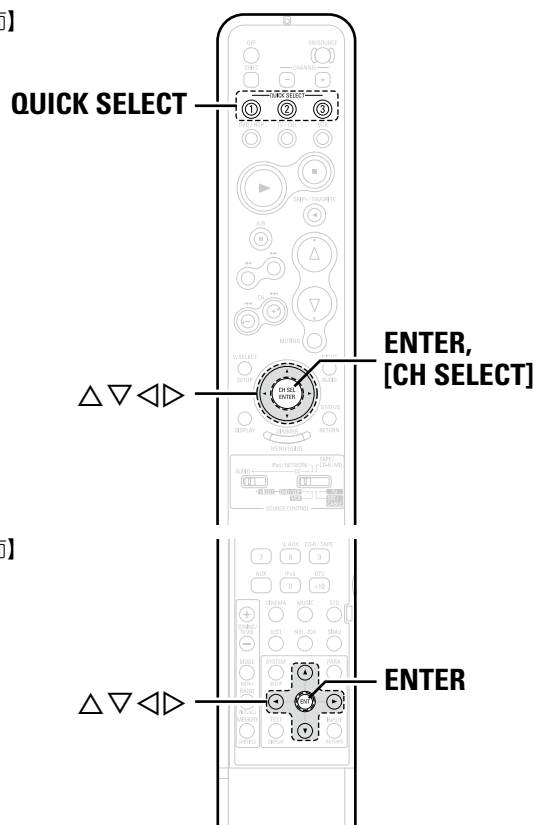
RECOUT SOURCE ◀▶ RECOUT TUNER ◀▶ ···· ◀▶ RECOUT V.AUX

3 **プログラムソースを再生する。**
操作のしかたは、機器の取扱説明書をご覧ください。

4 **録音/録画をはじめる。**
操作のしかたは、機器の取扱説明書をご覧ください。

- 解除する場合は、**<REC SELECT>** を押してから、ディスプレイに“RECOUT SOURCE”が表示されるまで、**<SOURCE SELECT>** を回してください。
- 現在選ばれているソースがデジタル出力端子（OPT-2）から出力されます。
  REC SELECTモードで選ばれているソースと、デジタル出力端子（OPT-2）からの出力は連動しません。
  ※ デジタル信号は、オーディオ/ビデオ出力（CD-R/TAPE、VCR）端子からは出力されません。
- 録音/録画する前に、あらかじめ「試し録音」や「試し録画」をおこなってください。

ご注意

あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

操作説明のボタン名について

< >：本体のボタン
[ ]：リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

便利な機能

チャンネルレベルの調節

再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、各チャンネルレベルの調節をおこなってください。

1 **<ENTER> または [CH SELECT] を押す。**

```
FL   Vol.+ 1.5dB
```

2 **△▽、<ENTER> または [CH SELECT] でスピーカーを選ぶ。**

ボタンを押すたびにスピーカーが切り替わります。

3 **◁ ▷ で音量を調節する。**

サブウーハーの音量は、“-12dB”に設定されているときに、◁を押すと“OFF”に設定することができます。

クイックセレクト機能

現在再生中の入力ソースや入力モード、サラウンドモード、ルーム EQ、音量を記憶させます。

1 **入力ソースや入力モード、サラウンドモード、ルームEQ、音量を記憶させたい状態に設定する。**

2 **“Memory”が点灯するまで、QUICK SELECT を長押しする。**

【お買い上げ時の設定】

	入力ソース	音量
クイックセレクト1	DVD	–40 dB
クイックセレクト2	TV/CBL	–40 dB
クイックセレクト3	VCR	–40 dB

設定を呼び出すときは、呼び出したい設定が記憶されている **QUICK SELECT** を押してください。

パーソナルメモリープラス機能

最後に選ばれた入力モードやサラウンドモードの設定を入力ソースごとに設定します。
入力ソースに切り替えると、自動的に前回使用されたときの設定になります。

サラウンドパラメーター、音質の調整、ルーム EQ の設定および各スピーカーの音量は、サラウンドモードごとに記憶します。

ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。
再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定になります。

バックアップメモリー

電源を切ったり、電源コードを抜いた場合でも、各種設定をバックアップして約 1 週間保持します。

マイコンの初期化

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種ボタンの設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。

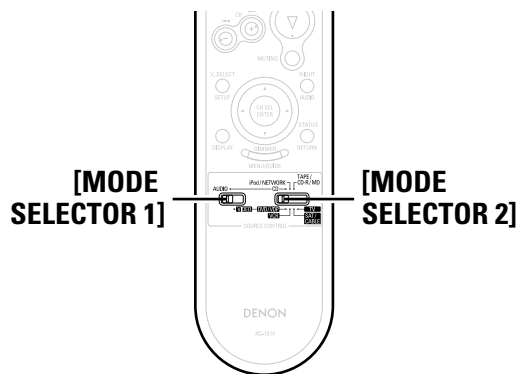
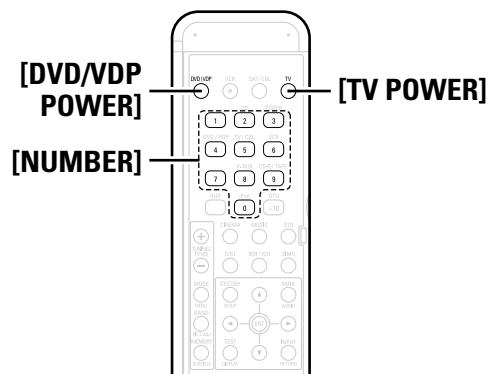
1 **<POWER> で電源を切る。**

2 **<SPEAKER A> と <SPEAKER B> を同時に押しながら、<POWER> を押す。**

3 **ディスプレイ表示が約1秒間隔で点滅したら、2つのボタンから指を離す。**

操作 3 でディスプレイ表示が約 1 秒間隔で点滅しない場合は、もう一度操作 1 からやり直してください。

リモコン操作

【前面】

【裏面】

お手持ちの機器の形式や年式によって、操作できないボタンがあります。

DENON 製オーディオ機器を操作する

1 **[MODE SELECTOR 1] を “AUDIO” に切り替える。**

2 **[MODE SELECTOR 2] を操作したい機器（CD、iPod/NETWORK または TAPE/CD-R/MD）に切り替える。**

3 **オーディオ機器を操作する。**

※ 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
※ 機種によっては操作できないものがあります。

プリセット登録する

- 付属のリモコンにプリセット登録すると、各社の機器の操作ができるようになります。
- 機種によっては操作できない場合や、機器が正常に動作しない場合があります。

1 **[MODE SELECTOR 1] を “AUDIO” または “VIDEO” に切り替える。**

※ **[MODE SELECTOR 1]** は次のように切り替えてください。
AUDIO：CD または TAPE/CD-R/MD を操作する場合。
VIDEO：DVD/VDP、VCR、SAT/CABLE または TV を操作する場合。

2 **[MODE SELECTOR 2] をメモリーしたい機器に切り替える。**

3 **[DVD/VDP POWER] と [TV POWER] を同時に押す。**
送信表示が点滅します。

4 **プリセットコード表（☞ 巻末）を参照して、メモリーする機器のメーカーの番号（3 桁）を [NUMBER] を押して入力する。**

5 **続けて他の機器のメモリーをおこなう場合：操作 1 ～ 4 をくり返しおこなう。**

- メーカーによってはプリセットコードを数種類持っています。動作しない場合は別のコードを入力してください。
- TAPE/CD-R/MD、DVD/VDP および SAT/CABLE は、各々どちらか一方の機器しかプリセットメモリーできません。

プリセット登録した機器を操作する

1 **[MODE SELECTOR 1] を “AUDIO” または “VIDEO” に切り替える。**

※ **[MODE SELECTOR 1]** は次のように切り替えてください。
AUDIO：CD または TAPE/CD-R/MD を操作する場合。
VIDEO：DVD/VDP、VCR、SAT/CABLE または TV を操作する場合。

2 **[MODE SELECTOR 2] を操作したい機器に切り替える。**

3 **機器を操作する。**

※ 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
※ 機種によっては操作できないものがあります。

機器ボタンごとのボタンのはたらき

❏ 前面

<table>
<tr><th>操作機器</th><th>CD
プレーヤー</th><th>iPod</th><th>CD
レコーダー</th><th>MD
レコーダー</th><th>テープ
デッキ</th><th>DVD
プレーヤー</th><th>ビデオ
ディスク
プレーヤー</th><th>ビデオ
デッキ</th><th>衛星
チューナー</th><th>ケーブル
テレビ</th><th>テレビ
（モニター）</th></tr>
<tr><td>MODE SELECTOR 1</td><td colspan="5">AUDIO</td><td colspan="6">VIDEO</td></tr>
<tr><td>MODE SELECTOR 2</td><td>CD</td><td>iPod/
NETWORK</td><td colspan="3">TAPE / CD-R / MD</td><td colspan="2">DVD / VDP</td><td>VCR</td><td colspan="2">SAT / CABLE</td><td>TV</td></tr>
<tr><td>OFF</td><td colspan="5">–</td><td>電源オフ</td><td colspan="5">–</td></tr>
<tr><td>ON/SOURCE</td><td colspan="5">–</td><td>電源オン</td><td colspan="5">電源オン / スタンバイ</td></tr>
<tr><td>CHANNEL +</td><td>–</td><td>1 曲 /
アルバム
シャッフル
再生</td><td colspan="3">–</td><td colspan="6">チャンネル切り替え（+）</td></tr>
<tr><td>CHANNEL –</td><td>–</td><td>1 曲 /
全曲
リピート
再生</td><td colspan="3">–</td><td colspan="6">チャンネル切り替え（–）</td></tr>
<tr><td>▶</td><td>再生</td><td>再生 /
一時停止</td><td colspan="6">再生</td><td colspan="3" rowspan="6">パンチスルー</td></tr>
<tr><td>■</td><td colspan="8">停止</td></tr>
<tr><td>❚❚, A/B</td><td>一時停止</td><td>–</td><td colspan="2">一時停止</td><td>A/B
切り替え</td><td colspan="3">一時停止</td></tr>
<tr><td>◀,
DISC SKIP +</td><td>ディスク
スキップ
＋</td><td colspan="3">–</td><td>リバース
再生</td><td>ディスク
スキップ</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>◀◀ ▶▶</td><td colspan="4">マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）</td><td>巻戻し /
早送り</td><td colspan="3">マニュアルサーチ
（早戻し / 早送り）</td></tr>
<tr><td>❙◀◀ ▶▶❙
VCR CH + / –</td><td colspan="4">オートサーチ（頭出し）</td><td>–</td><td colspan="2">オートサーチ
（頭出し）</td><td>チャンネル
切り替え
（+、–）</td></tr>
<tr><td>SETUP</td><td colspan="5">–</td><td>セット
アップ</td><td colspan="5">–</td></tr>
<tr><td>△ ▽ ◁ ▷</td><td>–</td><td>カーソル</td><td colspan="3">–</td><td>カーソル
操作</td><td colspan="2">–</td><td colspan="3">カーソル操作</td></tr>
<tr><td>AUDIO</td><td colspan="5">–</td><td>音声
切り替え</td><td colspan="5">–</td></tr>
<tr><td>ENTER</td><td>–</td><td>確定</td><td colspan="3">–</td><td>設定の
確定</td><td colspan="2">–</td><td colspan="3">設定の確定</td></tr>
<tr><td>DISPLAY</td><td colspan="5">–</td><td>ディスプ
レイ
切り替え</td><td colspan="2">–</td><td colspan="3">ディスプレイ切り替え</td></tr>
<tr><td>RETURN</td><td colspan="5">–</td><td>リターン</td><td colspan="2">–</td><td colspan="3">リターン</td></tr>
<tr><td>MENU</td><td colspan="5">–</td><td>メニュー
呼び出し</td><td colspan="2">–</td><td colspan="3">メニュー呼び出し</td></tr>
</table>

❑ 裏面

操作機器	CD プレーヤー	iPod	CD レコーダー	MD レコーダー	テープ デッキ	DVD プレーヤー	ビデオ ディスク プレーヤー	ビデオ デッキ	衛星 チューナー	ケーブル テレビ	テレビ （モニター）
MODE SELECTOR 1	**AUDIO**					**VIDEO**					
MODE SELECTOR 2	**CD**	**iPod/ NETWORK**	**TAPE / CD-R / MD**			**DVD / VDP**		**VCR**	**SAT / CABLE**		**TV**
POWER	–					電源オン/電源オフ					
NUMBER (0 ~ 9, +10)	–					数字入力/選曲		–	チャンネル		
TV VOL (+, –)	–					音量調節（+、–）					
MODE / MENU	–	Browse/ Remote モード 切り替え （長押し）	–			メニュー 呼び出し	–		メニュー呼び出し		
SETUP	–					セット アップ	–				
△ ▽ ◁ ▷	–					カーソル 操作	–		カーソル操作		
AUDIO	–					音声	–				
PICTURE ADJUST	–					画質調整	–				
ENTER	–					設定の 確定	–		設定の確定		
SUBTITLE	–					サブ タイトル	–				
DISPLAY	–					ディスプ レイ 切り替え	–		ディスプレイ切り替え		
RETURN	–					リターン	–		リターン		
初期設定 （プリセット コード）	DENON （111）	–	DENON （151）	–		DENON （111）	–	HITACHI （108）	–	ABC （007）	HITACHI （134）
特記事項	①	–	①			①、②		①	①、③		①、③

【特記事項】

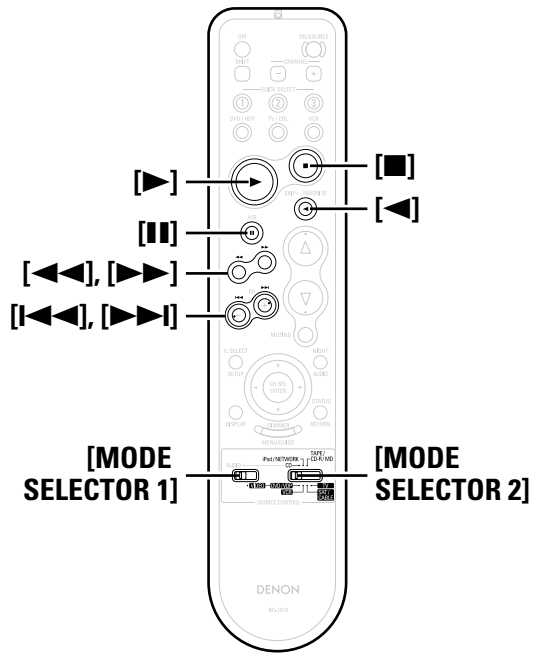
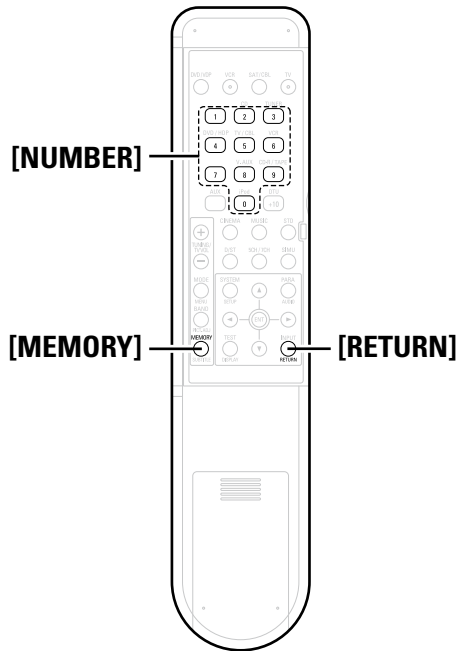
① それぞれのモードには、一つの機器しかプリセット登録することができません。また、新しいコードをプリセット登録すると前のコードは自動的に消去されます。

② DVD のリモコンボタンは、メーカーによって機能名が異なる場合がありますので、あらかじめご確認ください。

③ TV と SAT/CBL モードには、CD、iPod/NETWORK、TAPE/CD-R/MD、DVD/VDP、VCR のいずれかのボタンを割り当てることができます（☞44 ページ「パンチスルー機能」）。

ご注意

[TUNING +, –]、**[BAND]** および **[MEMORY]**（**[MODE SELECTOR 1]** が“AUDIO”のとき）と **[SHIFT]** は効きません。

【前面】

【裏面】

パンチスルー機能

パンチスルーは、**[MODE SELECTOR 2]** が "SAT/CABLE" または "TV" の位置でも CD、iPod/NETWORK、TAPE/CD-R/MD、DVD/VDP または VCR の再生（▶）、停止（■）、一時停止（❚❚）、ディスクスキップ（◀）、早送り（▶▶）、巻き戻し（◀◀）およびサーチ（❙◀◀ ▶▶❙）を操作できる機能です。

※ お買い上げ時は、"設定なし" に設定されています。

1 **[MODE SELECTOR 1] を "VIDEO" に切り替える。**

2 **[MODE SELECTOR 2] をパンチスルーさせたい機器（SAT/CABLE または TV）に切り替える。**

3 **[MEMORY] と [RETURN] を同時に押す。**
送信表示が点滅します。

4 **下表を参照して、パンチスルーしたい機器に対応する番号を入力する。**

パンチスルーしたい機器	番号
CD	1
iPod/NETWORK	2
TAPE/CD-R/MD	3
DVD/VDP	4
VCR	5
設定なし	0

アンプアサインの設定と接続について

本機は、次の再生に対応しています。

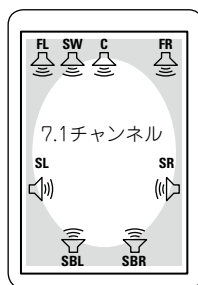
- **7.1 チャンネル**
- **バイアンプ再生（フロントスピーカー）**

「設定 1」および「設定 2」からお好みの再生環境を選び、“System Setup” – “Option Setup” – “Amp Assign”（☞28 ページ）で該当するアンプアサインモードを設定してください。
また、スピーカーの接続も「アンプアサインモードの設定と各スピーカー端子に接続するスピーカー」の説明の通りにおこなってください。

ご注意

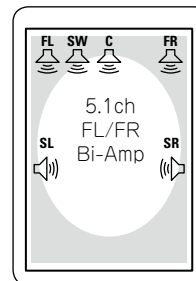
- バイアンプ再生には、バイアンプ接続対応の端子を持つスピーカーをお使いください。
- バイアンプ接続のときは、スピーカー端子の短絡板または短絡用ワイヤーを外してください。

設定 1:

● 7.1 チャンネル再生

❑ アンプアサインモードの設定と各スピーカー端子に接続するスピーカー

<table>
<tr><td rowspan="2">スピーカー端子 / アンプアサインモード</td><td colspan="2">FRONT</td><td rowspan="2">CENTER</td><td colspan="2">SURR</td><td colspan="2">SURR. BACK/ AMP ASSIGN</td></tr>
<tr><td>R</td><td>L</td><td>R</td><td>L</td><td>R</td><td>L</td></tr>
<tr><td>7.1ch</td><td>FR</td><td>FL</td><td>C</td><td>SR</td><td>SL</td><td>SBR</td><td>SBL</td></tr>
</table>

設定 2:

● FL/FR チャンネルをバイアンプ接続して 5.1 チャンネル再生をする場合

❑ アンプアサインモードの設定と各スピーカー端子に接続するスピーカー

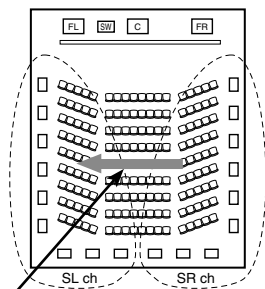
<table>
<tr><td rowspan="2">スピーカー端子 / アンプアサインモード</td><td colspan="2">FRONT-A</td><td colspan="2">FRONT-B</td><td rowspan="2">CENTER</td><td colspan="2">SURR</td><td colspan="2">SURR. BACK / AMP ASSIGN</td></tr>
<tr><td>R</td><td>L</td><td>R</td><td>L</td><td>R</td><td>L</td><td>R</td><td>L</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Front A Bi-Amp</td><td rowspan="4">FR-A</td><td rowspan="4">FL-A</td><td rowspan="4">FR-B</td><td rowspan="4">FL-B</td><td rowspan="4">C</td><td rowspan="4">SR</td><td rowspan="4">SL</td><td>FR</td><td>FL</td></tr>
<tr><td colspan="2">FL-A/FR-A
バイアンプ接続</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Front B Bi-Amp</td><td>FR</td><td>FL</td></tr>
<tr><td colspan="2">FL-B/FR-B
バイアンプ接続</td></tr>
</table>

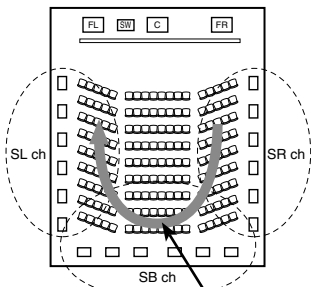
その他の情報

スピーカーの設置について

サラウンドバックスピーカーについて

5.1 チャンネルシステムにサラウンドバックスピーカーを追加することにより、真後ろへの定位を容易に実現できます。同時に側方から後方にかけての音像が絞られ、側方から後方へ回り込む音、正面から真後ろへ移動する音など、サラウンド信号の表現力が大幅に向上しました。

5.1ch システムによる定位・音像の変化

SR → SL と移動する音像の動き

6.1ch システムによる定位・音像の変化

SR → SB → SL と移動する音像の動き

また、6.1 チャンネルで録音されたソースだけでなく、従来の 2 〜 5.1 チャンネルソースでもよりサラウンド効果を高めることができます。

サラウンドバックスピーカーの本数について

2 本のスピーカーを使用することをおすすめします。
特にダイポール特性のスピーカーを使用する場合は、必ず 2 本使用してください。

サラウンドバックスピーカーを使用する場合のサラウンド L、R チャンネルの設置について

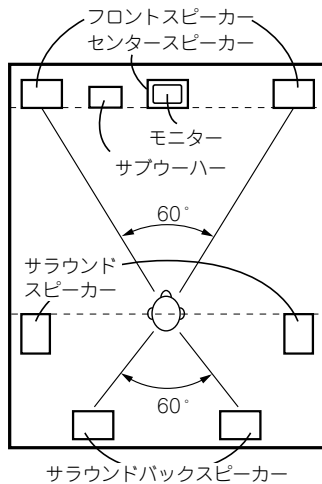
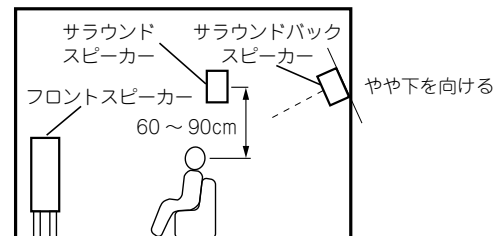
サラウンド L、R チャンネルのスピーカーをやや前寄りに設置することをおすすめします。

スピーカーの設置例

次にスピーカーの配置例をご紹介します。これらを参考に、お手持ちのスピーカーを種類や用途に合わせて配置してください。

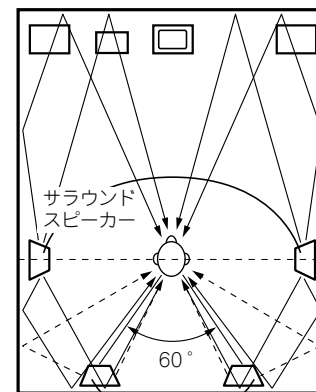
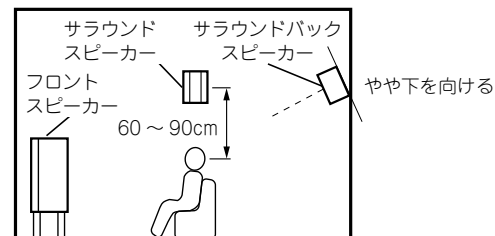
【1】 サラウンドバックスピーカーを使用する場合

① 主に映画再生をおこなう場合

ご使用になるサラウンドスピーカーがシングルウェイまたは 2 ウェイスピーカーの場合におすすめします。

【上面から見た図】

【側面から見た図】

② 映画再生をメインにおこない、サラウンドスピーカーに拡散型スピーカーを使用する場合

映画再生をより効果的におこなうために、サラウンドスピーカーにダイポール特性やトライポール特性などを持つ、拡散音場型のスピーカーを用いる場合は、サラウンドスピーカーの設置場所を①に比べてやや前寄りにします。

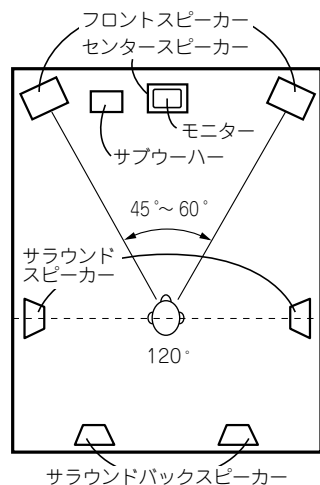
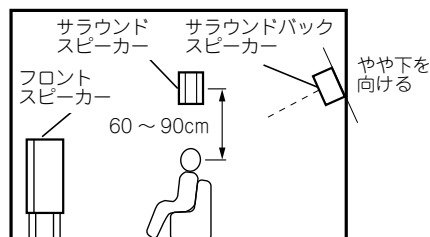
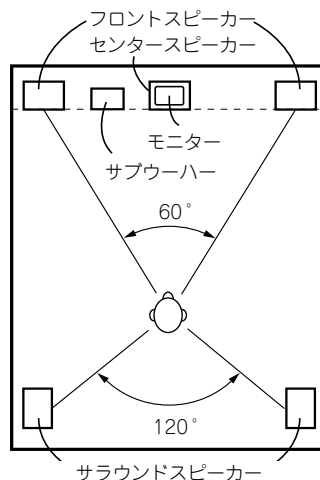
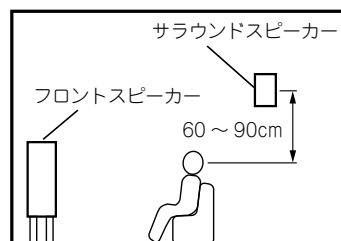
サラウンド音の視聴ポイントに到達するイメージ

【上面から見た図】

【側面から見た図】

③映画再生または音楽再生のサラウンドスピーカーを使用する場合

【上面から見た図】

【側面から見た図】

【2】サラウンドバックスピーカーを使用しない場合

フロントスピーカー
センタースピーカー
モニター
サブウーハー
60°
120°
サラウンドスピーカー

【上面から見た図】

【側面から見た図】

サラウンドについて

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

ドルビーサラウンド

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル（FL、FR、C）とサラウンド 2 チャンネル（SL、SR）、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。
このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。
AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

ドルビープロロジック II

ドルビープロロジック II は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。
CD のような通常の音楽は 5 チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。
サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化（周波数特性 20Hz ～ 20kHz 以上）し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

ドルビープロロジック IIx

ドルビープロロジック IIx は、ドルビープロロジック II をさらに改良したマトリクスデコード技術です。
2 チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大 7.1 チャンネルの音声を再生できます。
音楽再生に適した「Music」モードと映画再生に適した「Cinema」モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な「Game」モードがあります。

※ ドルビーサラウンド録音されたソースについて
ドルビーサラウンド録音されたソースには以下のロゴマークが表示されています。
ドルビーサラウンド対応マーク：DOLBY SURROUND

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

DTS サラウンド

DTS デジタルサラウンド

DTS デジタルサラウンドは DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1ch のデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS-ES™ Discrete 6.1

DTS-ES™ ディスクリート 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えて SB チャンネルを追加した 6.1ch のデジタルディスクリート音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1ch 音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1

DTS-ES™ マトリクス 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に SB チャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1ch 音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1ch 音声としてデコードすることも可能です。

DTS NEO:6™ サラウンド

DTS NEO:6™ は、2 チャンネルソースを 6.1 チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した「DTS NEO:6 CINEMA」と、音楽再生に適した「DTS NEO:6 MUSIC」があります。

DTS 96/24

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/ 量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1ch となります。

本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。米国特許第 5,451,942 号、5,956,674 号、5,974,380 号、5,978,762 号、6,226,616 号、6,487,535、7,003,467 号、その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS、DTS Digital Surround、ES および Neo:6 は登録商標であり、DTS のロゴ、シンボルおよび DTS 96/24 は、DTS, Inc. の商標です。DTS, Inc. © 1996-2007 DTS, Inc. 版権所有。

Audyssey MultEQ®

Audyssey MultEQ® は、室内における音響的問題を把握するために、リスニングエリアの音声情報を正確に測定し、それらの結果を組み合わせることで、すべての席における時間応答および周波数特性の双方を補正できる最初の技術です。
Audyssey MultEQ は広いリスニングエリアの周波数特性の問題を補正するだけでなく、全自動サラウンドシステムセットアップも遂行します。
詳しくは、21 ページをご覧ください。

AUDYSSEY MULTEQ
Audyssey MultEQ® は、Audyssey ラボラトリーズの商標です。米国と国内特許出願の 20030235318 および 10/700,220 の下で許可されます。米国共同で外国特許審議中。MultEQ および Audyssey MultEQ ロゴは Audyssey ラボラトリーズの商標です。版権所有。

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）

HDMI とは、DVI（Digital Visual Interface）をベースに、民生機器用に機能を最適化した次世代テレビ向けのデジタルインターフェース規格です。
非圧縮のデジタル映像と、マルチチャンネルオーディオの転送が 1 つの接続でおこなえます。
また、DVI と同様にデジタル画像信号の暗号化方式である著作権保護技術の HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）にも対応しています。

Deep Color

微小な映像データを増やすことで、色の変化をより滑らかにして、異なる色彩間の微妙なグラデーションを表現することが可能になります。また、黒と白の間に従来よりもより多くのグレーを表現することが可能になります。

xvYCC

次世代の色空間 “xvYCC” は現行のハイビジョンテレビの 1.8 倍の色情報を再現することができます。
色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。

“HDMI”、“HDMI ロゴ” および “High-Definition Multimedia Interface” は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

MPEG-2 AAC について

MPEG-2　AAC（Advanced Audio Coding）は、MPEG（Moving Picture Experts Group）により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。
高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。
MPEG-2　AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

❑ MPEG-2　AAC のスペック（概要）

- アルゴリズム：MAINプロファイル
  LC（Low Complexity）プロファイル
  SSR（Scalable Sampling Rate）プロファイル
- サンプリング周波数：
  8kHzから96kHzまで対応
- チャンネル数：最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- その他の機能：LFE（Low Frequency Effect）サポート
  マルチリンガル（複数言語）サポート

❑ 米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

サラウンドモードとパラメーター一覧表

サラウンドモード	信号と調節可能なモード							
	チャンネル出力					パラメーター　※（　）内は初期値		
	フロント左 / 右	センター	サラウンド 左 / 右	サラウンド バック 左 / 右	サブウーハー	D. COMP *1	LFE *2	SB CH OUT
DIRECT	○	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×
STEREO	○	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×
EXT.IN	○	◎	◎	◎	◎	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	×	○
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎	×	◎	○ (OFF)	×	○
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	×	○
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○
MPEG2 AAC	○	◎	◎	◎	◎	×	○ (0 dB)	○
5CH / 7CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○
VIRTUAL	○	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×

○：信号有り / 制御可能
×：信号無し / 制御不可能
◎：スピーカー有り無しの設定により、ON/OFF 可能
*1：ドルビーデジタルおよび DTS 信号再生時
*2：ドルビーデジタル、DTS および DVD オーディオ再生時

サラウンドモード	信号と調節可能なモード														
	パラメーター　※（　）内は初期値														
	CINEMA EQ.	MODE	ROOM SIZE	EFFECT LEVEL	DELAY TIME	Subwoofer	PRO LOGIC II/IIx MUSIC モードのみ			NEO:6 MUSIC モードのみ	EXT. IN のみ	Tone Control	Night Mode	Room EQ	RESTORER
							PANORAMA	DIMENSION	CENTER WIDTH	CENTER IMAGE	SUBWOOFER ATT.				
DIRECT	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○（注 4）	○
STEREO	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
EXT.IN	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIx	○（注 1）	○ (Cinema)	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
DOLBY PRO LOGIC II	○（注 2）	○ (Cinema)	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
DTS NEO:6	○（注 1）	○ (Cinema)	×	×	×	×	×	×	×	○ (0.3)	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
DOLBY DIGITAL	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DTS SURROUND	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○（注 5）	○ (OFF)	×
MPEG2 AAC	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
5CH / 7CH STEREO	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
ROCK ARENA	×	×	○ (medium)	○ (10)	×	×	×	×	×	×	×	○（注 3）	○ (OFF)	○ (OFF)	○
JAZZ CLUB	×	×	○ (medium)	○ (10)	×	×	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
MONO MOVIE	×	×	○ (medium)	○ (10)	×	×	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
VIDEO GAME	×	×	○ (medium)	○ (10)	×	×	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
MATRIX	×	×	×	×	○ (30 ms)	×	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
VIRTUAL	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (0 dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○

○：信号有り / 制御可能
×：信号無し / 制御不可能
注 1："Cinema" モードのみ。
注 2："Cinema"、"Pro Logic" モードのみ。
注 3：低音 +6 dB, 高音 +4 dB
注 4："ダイレクトモード" の設定により使用できます。
注 5：このパラメーターは、入力信号が "DTS 96/24" のときは無効です。

入力信号に対するサラウンドモード表示

ボタン / サラウンドモード	注	入力信号 ANALOG	LINEAR PCM	DTS: DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS: DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS: DTS (5.1ch)	DTS: DTS 96/24	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL (2ch)	MPEG–2 AAC: AAC (5.1ch)	MPEG–2 AAC: AAC (2ch)	MPEG–2 AAC: AAC (1+1ch)	DVD-AUDIO: DVD-Audio (multi ch)	DVD-AUDIO: DVD-Audio (2ch)
STANDARD																	
DTS SURROUND																	
DTS ES DSCRT6.1	*1	×	×	● *5	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS ES MTRX6.1	*1	×	×	×	● *5	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS SURROUND		×	×	○ *4	○ *4	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS 96/24		×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS + NEO:6	*1	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS NEO:6 CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○
DTS NEO:6 MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○
DOLBY SURROUND																	
DOLBY DIGITAL EX	*1	×	×	×	×	×	×	○ *3	○	○	○	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL		×	×	×	×	×	×	○ *4	●	●	●	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	● *5	○	○	○	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIx CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	●	×	×	○
DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○
DOLBY PRO LOGIC IIx GAME		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○
DOLBY PRO LOGIC II CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○
DOLBY PRO LOGIC II GAME		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○
DOLBY PRO LOGIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○
AAC																	
AAC + DOLBY EX		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×
AAC + PLIIx CINEMA		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
AAC + PLIIx MUSIC		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
MPEG2 AAC		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	●	×	×

●：初期状態で選ばれるモード
○：選択可能なモード
×：選択不可能なモード

注

*1：サラウンドバックスピーカーの設定を“None”にしているときは、このサラウンドモードを選択できません。
*2：サラウンドバックスピーカーの設定を“1spkr”または“None”にしているときは、このサラウンドモードを選択できません。
*3：サラウンドバックスピーカーの設定を“1spkr”にしているときは、自動的にこのサラウンドモードになります。（他のサラウンドモードは選択できません。）
*4：サラウンドバックスピーカーの設定を“None”にしているときは、自動的にこのサラウンドモードになります。（他のサラウンドモードは選択できません。）
*5：サラウンドバックスピーカーの設定を“2spkr”にしているときは、自動的にこのサラウンドモードになります。（他のサラウンドモードは選択できません。）

ボタン	注	入力信号															
サラウンドモード				DTS				DOLBY DIGITAL					MPEG–2　AAC			DVD-AUDIO	
		ANALOG	LINEAR PCM	DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (5.1ch)	AAC (2ch)	AAC (1+1ch)	DVD-Audio (multi ch)	DVD-Audio (2ch)
DIRECT																	
DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
DSP SIMULATION																	
5CH / 7CH STEREO	*3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
ROCK ARENA		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
JAZZ CLUB		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
MONO MOVIE		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
VIDEO GAME		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
MATRIX		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
VIRTUAL		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
STEREO																	
STEREO		●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	●

注

*3: サラウンドバックスピーカーを“None”に設定している場合は、“5CH STEREO”を表示します。

●: 初期状態で選ばれるモード
○: 選択可能なモード
×: 選択不可能なモード

故障かな？と思ったら

❏ 各接続は正しいですか
❏ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
❏ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、弊社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【共通】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
電源が入らない。または、入れてもすぐに切れる。	●電源コードの差し込みが不完全である。	●本機のリアパネルおよび電源コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	19
スピーカーから音が出ない。	●入力機器との接続またはスピーカーケーブルの接続が不完全である。	●接続を確認してください。	12
	●再生したい機器と入力ソースが合っていない。	●接続を確認して、適切な入力ソースを選んでください。	36
	●主音量が小さすぎる。	●主音量を適切な大きさに調節してください。	37
	●消音（ミューティング）モードになっている。	●消音（ミューティング）モードを解除してください。	37
	●ヘッドホンを接続している。	●ヘッドホンを外してください。ヘッドホンを接続していると、スピーカーやプリアウト端子から音が出なくなります。	37
	●デジタル信号が入力されていない。	●接続を確認し、デジタル入力の設定をした入力ソースを選んでください。	27
	●デジタル入力端子が割り当てられている端子と入力モードが合っていない。	●入力モードを設定してください。	36
ディスプレイの表示が消える。	●ディマー機能で、本機のディスプレイ表示を“消灯”にしている。	●“消灯”以外の設定にしてください。	37
ディスプレイが“DOLBY DIGITAL”の表示にならない。	●DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定が正しくない。	●DVD プレイヤーの音声出力の設定を確認してください。詳しくは、DVD プレーヤーの取扱説明書をお読みください。	–
突然電源が切れ、電源表示が赤色で点滅している。	●機器内部の温度上昇により、保護回路が働いている。	●一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。 ●本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	12 12
	●スピーカーケーブルの芯線どうしが接触していたり、芯線が端子から外れて本機のリアパネルに接触したため、保護回路が働いている。	●電源コードを抜き、芯線をしっかりとより直すか、端末処理をするなどした後で、もう一度接続し直してください。	12
	●指定されたインピーダンス以下のスピーカーを使用している。	●スピーカーは、指定のインピーダンスのものを使用してください。	12
	●本機が故障している。	●電源を切り、弊社の修理相談窓口までご連絡ください。	—

【リモコン】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
リモコンを操作しても、正常に動作しない。	●乾電池が消耗している。	●新しい乾電池と交換してください。	6
	●本体から離れすぎているか、角度が良くない。	●リモコンは、本機から約 7 メートルおよび 30° 以内の範囲で操作してください。	6
	●本機とリモコンの間に障害物がある。	●障害物を取り除いてください。	6
	●乾電池の ⊕ と ⊖ が正しくセットされていない。	●正しい極性でセットしてください。	6
	●本機のリモコン受光部に強い光（直射日光、インバータ式蛍光灯の光など）が当たっている。	●受光部に強い光が当たらない場所に設置してください。	6
	●本体とリモコンのリモート ID が合っていない。	●リモート ID を“1”に設定してください。	29

【オーディオ】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
センタースピーカーから音が出ない。	●テレビや AM 放送などのモノラル音源を、“STANDARD”(Dolby/DTS Surround) モードで再生している。	●モノラル音源を再生する場合は、“STANDARD”(Dolby/DTS Surround) 以外のサラウンドモードを選んでください。	30
サラウンドスピーカーから音が出ない。	●サラウンドモードが、2 チャンネル再生用（“STEREO” または “DIRECT”）になっている。	●サラウンド再生用のモードにしてください。	31
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	●サラウンドバックスピーカーの設定が “None” になっている。 ●6.1/7.1 チャンネル再生用のサラウンドモードになっていない。	●サラウンドバックスピーカーを “None” 以外に設定してください。 ●サラウンド再生用のモードを選んでください。	25 30
サブウーハーから音が出ない。	●サブウーハーの電源が入っていない。 ●“Speaker Setup” の “Subwoofer” を “No” に設定している。 ●サブウーハーが正しく接続されていない。 ●サブウーハーの音量が小さくなっている。	●サブウーハーの電源を入れてください。 ●サブウーハーの設定を “Yes” にしてください。 ●接続を確認してください。 ●サブウーハーのチャンネルレベルを上げてください。	— 25 12 40
リモコンの **TEST TONE** ボタンを押しても、テストトーンが出力されない。	●サラウンドモードが “STANDARD”(Dolby/DTS Surround) モードになっていない。	●サラウンドモードを “STANDARD”(Dolby/DTS Surround) モードにしてください。	30
DTS 音声が出力されない。	●DVD プレーヤーの音声出力の設定が、ビットストリームになっていない。 ●DVD プレーヤーが DTS 音声の再生に対応していない。 ●入力モードの設定が、“PCM” になっている。	●DVD プレーヤーの設定をしてください。詳しくは、ご使用のプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。 ●DTS 対応のプレーヤーをご使用ください。 ●デコードモードを “Auto” または “DTS” にしてください。	— — 36
HDMI オーディオ信号がスピーカーに出力されない。	—	●HDMI 端子から入力されたオーディオ信号は、本機で再生することはできません。本機と接続しているスピーカーから音声を出力したい場合は、アナログまたはデジタルオーディオの接続が必要です。	13

症 状	原 因	対 策	関連
HDMI 接続しているテレビから音声が出力されない。	●HDMI の入力設定が合っていない。	●HDMI の入力設定を確認してください。	27

【ビデオ】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
映像が映らない。	●本機の映像出力端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。 ●本機と接続したモニターの入力端子が入力設定と合っていない。 ●プレーヤーとの接続がコンポーネント端子でモニターとの接続がビデオ端子（黄）または S ビデオ端子になっている。	●接続を確認してください。 ●モニターの入力端子と入力設定を合わせてください。 ●ハイビジョン（1080i/720p）やプログレッシブ映像信号（480p/576p）は、ダウンコンバートされません。プレーヤーをインターレース（480i/576i）の設定にしてください。	13 ～ 19 — —
HDMI 接続で映像が映らない。	●HDMI 端子の接続が不完全である。 ●HDMI の入力設定が合っていない。 ●接続されたプレーヤーなどの出力フォーマット（HDMI FORMAT）とモニター側の入力対応フォーマットが合っていない。	●接続を確認してください。 ●“Input Setup” で HDMI 接続している端子を選んでください。 ●接続されたプレーヤーなどの出力フォーマット（HDMI FORMAT）とモニターの入力対応フォーマットが合っているかを確認してください。	13 27 13
DVD から VCR にダビングできない。	—	●故障ではありません。ほとんどの映画ソフトには、コピー防止信号が入っているので、ダビングすることはできません。	—

【iPod】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
iPod が再生できない。	●“iPod Assign” で割り当てた入力ソースと合っていない。 ●ケーブルが正しく接続されていない。 ●iPod 用コントロールドックの AC アダプターがコンセントに挿入されていない。	●“iPod Assign” で割り当てた端子に接続し、入力ソースを切り替えてください。 ●接続をやり直してください。 ●AC アダプターを挿入していない場合は、本機と通信することができません。	28 15 —

保証とサービスについて

1 この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より１年間です。万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。

※ 修理相談窓口については、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後８年です。

5 お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

6 この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

7 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。

※ 当社製品のお問い合わせについては、お客様相談窓口にご連絡ください。

詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

主な仕様

❑オーディオ部

● **パワーアンプ部**

定格出力：

フロント：	75 W ＋ 75 W （負荷 8 Ω、20 Hz ～ 20 kHz T.H.D 0.08 %） 110 W ＋ 110 W （負荷 6 Ω、1 kHz、T.H.D 0.7 %）	
センター：	75 W （負荷 8 Ω、20 Hz ～ 20 kHz T.H.D 0.08 %） 110 W （負荷 6 Ω、1 kHz、T.H.D 0.7 %）	
サラウンド：	75 W ＋ 75 W （負荷 8 Ω、20 Hz ～ 20 kHz T.H.D 0.08 %） 110 W ＋ 110 W （負荷 6 Ω、1 kHz、T.H.D 0.7 %）	
サラウンドバック：	75 W ＋ 75 W （負荷 8 Ω、20 Hz ～ 20 kHz T.H.D 0.08 %） 110 W ＋ 110 W （負荷 6 Ω、1 kHz、T.H.D 0.7 %）	

出力端子：

フロント：	A または B	6 ～ 16 Ω
	A ＋ B	12 ～ 16 Ω

センター / サラウンド / サラウンドバック：6 ～ 16 Ω

● **アナログ部**

入力感度 / 入力インピーダンス： 200 mV / 47k Ω
周波数特性： 10 Hz ～ 100 kHz：+1, -3 dB（DIRECT モード時）
S/N 比： 98 dB（JIS-A、DIRECT モード時）

❑ビデオ部

● **標準映像端子**

入出力レベル / インピーダンス： 1 Vp-p/75 Ω
周波数特性： 5 Hz ～ 10 MHz：＋ 1、-3 dB

● **S 映像端子**

入出力レベル / インピーダンス：

Y（輝度）信号：	1 Vp-p/75 Ω
C（色）信号：	0.286 Vp-p/75 Ω

周波数特性： 5 Hz ～ 10 MHz：＋ 1、-3 dB

● **色差（コンポーネント）映像端子**

入出力レベル / インピーダンス：

Y（輝度）信号：	1 Vp-p/75 Ω
PB/CB（青色）信号：	0.7 Vp-p/75 Ω
PR/CR（赤色）信号：	0.7 Vp-p/75 Ω

周波数特性： 5 Hz ～ 30 MHz：＋ 0、-3 dB

❑総合

電源： AC 100 V　50 / 60 Hz
消費電力： 240 W（電気用品安全法による）
0.3 W（スタンバイ時）
最大外形寸法： 434（幅）× 171（高さ）× 383（奥行き）mm
（フット・つまみ・端子を含む）
質量： 11.3 kg

❑リモコン（RC-1076）

乾電池： R6P（単 3 形）乾電池 2 本使用
最大外形寸法： 52（幅）× 243（高さ）× 21（奥行き）mm
質量： 184 g（乾電池を含む）

※ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

プリセットコード一覧表

DVD Player

	Brand	Code
A	Aiwa	009
D	Denon	014, **[111]***
H	Hitachi	010
J	JVC	006, 011
K	Konka	012, 013
M	Magnavox	005
	Mitsubishi	004
P	Panasonic	014
	Philips	005, 015, 016, 017
	Pioneer	003, 008
S	Sanyo	018
	Sony	002, 019, 020
T	Toshiba	001, 021, 022
Z	Zenith	023

VDP

	Brand	Code
D	Denon	028, 029, 112
M	Magnavox	026
	Mitsubishi	028
P	Panasonic	029, 030
	Philips	026
	Pioneer	028, 031
R	RCA	032
S	Sony	033, 034, 035, 036

VCR

	Brand	Code
A	Admiral	081
	Aiko	095
	Aiwa	009
	Akai	026, 027, 070, 072, 082, 083, 084
	Alba	055
	Amstrad	009
	ASA	042
	Asha	087
	Audio Dynamic	005, 085
	Audiovox	088
	Beaumark	087
	Broksonic	086, 093
C	Calix	088
	Candle	006, 087, 088, 089, 090
	Canon	049, 057
	Capehart	025, 055, 056, 071
	Carver	015
	CCE	095
	Citizen	006, 007, 087, 088, 089, 090, 095
	Craig	007, 087, 088, 091, 115
	Curtis Mathes	006, 049, 073, 080, 087, 090, 092
	Cybernex	087
D	Daewoo	025, 055, 059, 074, 089, 093, 095, 096
	Daytron	025, 055
	DBX	005, 085
	Dumont	053
	Dynatech	009
E	Electrohome	001, 088, 097
	Electrophonic	088
	Emerson	001, 009, 017, 027, 086, 088, 089, 092, 093, 097, 100, 101, 102, 103, 104, 117
F	Flsher	009, 028, 031, 053, 054, 091, 099, 115
G	GE	007, 011, 049, 050, 051, 052, 073, 080, 087
	Go Video	047, 048
	Goldstar	000, 006, 012, 062, 088
	Gradiente	094
	Grundig	042
H	Harley Davidson	094
	Harman Kardon	040, 062
	Hi-Q	091
	Hitachi	009, 013, 023, 026, 058, **[108]***, 109, 110, 111
J	JC Penny	004, 005, 007, 023, 028, 049, 062, 085, 087, 088
	Jensen	013, 026
	JVC	004, 005, 006, 026, 029, 043, 044, 045, 046, 085
K	Kenwood	004, 005, 006, 026, 029, 033, 045, 085, 090
	Kodak	088
L	Lloyd	009, 094
	LXI	088
M	Magnavox	015, 016, 042, 049, 063, 106
	Magnin	087
	Marantz	004, 005, 006, 015, 042, 049, 085, 090
	Marta	088
	MEI	049
	Memorex	009, 033, 049, 053, 060, 081, 087, 088, 091, 094, 115
	Metz	123, 124, 125, 126, 127, 128
	MGA	001, 017, 027, 041, 097
	MGN Technology	087
	Midland	011
	Minolta	013, 023
	Mitsubishi	001, 003, 008, 013, 014, 017, 027, 029, 039, 040, 041, 045, 097
	Motorola	081
	Montgomery Ward	001, 002, 007, 009, 049, 063, 081, 115, 117
	MTC	009, 087, 094
	Multitech	007, 009, 011, 087, 090, 094
N	NAD	038
	NEC	004, 005, 006, 018, 026, 029, 045, 061, 062, 085
	Nikko	088
	Noblex	087
O	Optimus	081, 088
	Optonica	021
P	Panasonic	024, 049, 064, 066, 067, 068, 069, 107
	Perdio	009
	Pentax	009, 013, 023, 058, 090
	Philco	015, 016, 049
	Philips	015, 021, 042, 049, 105
	Pilot	088
	Pioneer	005, 013, 029, 036, 037, 038, 045, 085
	Portland	025, 055, 090
	Proscan	063, 080
	Pulsar	060
Q	Quartz	033
	Quasar	034, 035, 049
R	Radio Shack	001, 002, 021, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098, 115
	Radix	088
	Randex	088
	RCA	007, 013, 019, 023, 058, 063, 064, 065, 073, 080, 082, 087
	Realistic	009, 021, 031, 033, 049, 053, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098
	Ricoh	055
S	Salora	033, 041
	Samsung	007, 011, 051, 059, 070, 083, 087, 089, 113
	Sanky	081
	Sansui	005, 026, 029, 045, 061, 085, 114
	Sanyo	032, 033, 053, 087, 091, 115, 116
	SBR	042
	Scott	017, 020, 086, 089, 093, 117
	Sears	013, 023, 028, 031, 033, 053, 054, 088, 091, 098, 099, 115
	Sentra	055
	Sharp	001, 002, 021, 097
	Shogun	087
	Sony	075, 076, 077, 078, 079, 121, 122
	STS	023
	Sylvania	009, 015, 016, 017, 041, 049, 094
	Symphonic	009, 094
T	Tandy	009
	Tashiko	009, 088
	Tatung	004, 026, 030
	Teac	004, 009, 026, 094
	Technics	024, 049
	TMK	087, 092
	Toshiba	013, 017, 020, 041, 059, 089, 098, 099, 117
	Totevision	007, 087, 088
U	Unirech	087
V	Vecrtor Research	005, 062, 085, 089, 090
	Victor	005, 045, 046, 085
	Video Concepts	005, 027, 085, 089, 090
	Videosonic	007, 087
W	Wards	013, 021, 023, 087, 088, 089, 091, 094, 097, 118, 119, 120
X	XR-1000	094
Y	Yamaha	004, 005, 006, 026, 062, 085
Z	Zenith	060, 078, 079

Television

	Brand	Code
A	Admiral	045, 121
	Adventura	122
	Aiko	054
	Akai	016, 027, 046
	Alleron	062
	A-Mark	007
	Amtron	061
	Anam	006, 007, 036
	Anam National	061, 147
	AOC	003, 007, 033, 038, 039, 047, 048, 049, 133
	Archer	007
	Audiovox	007, 061
B	Bauer	155
	Belcor	047
	Bell & Howell	045, 118
	Bradford	061
	Brockwood	003, 047
C	Candle	003, 030, 031, 032, 038, 047, 049, 050, 122
	Capehart	003
	Celebrity	046
	Circuit City	003
	Citizen	029, 030, 031, 032, 034, 038, 047, 049, 050, 054, 061, 095, 122, 123
	Concerto	031, 047, 049
	Colortyme	003, 047, 049, 135
	Contec	013, 051, 052, 061
	Cony	051, 052, 061
	Craig	004, 061
	Crown	029
	Curtis Mathes	029, 034, 038, 044, 047, 049, 053, 095, 118
D	Daewoo	027, 029, 039, 048, 049, 054, 055, 106, 107, 137
	Daytron	003, 049
	Dimensia	044
	Dixi	007, 015, 027
E	Electroband	046
	Electrohome	029, 056, 057, 058, 147
	Elta	027
	Emerson	029, 051, 059, 060, 061, 062, 118, 123, 124, 139, 148
	Envision	038
	Etron	027
F	Fisher	014, 021, 063, 064, 065, 118
	Formenti	155
	Fortress	012
	Fujitsu	004, 062
	Funai	004, 062
	Futuretech	004
G	GE	020, 036, 037, 040, 044, 058, 066, 088, 119, 120, 125, 147
	Goldstar	000, 015, 029, 031, 039, 048, 051, 056, 057, 067, 068, 069, 116
	Grundy	062
H	Hitachi	029, 031, 051, 052, 070, 111, 112, 113, 124, **[134]***
	Hitachi Pay TV	151
I	Infinity	017, 071
J	Janeil	122
	JBL	017, 071
	JC Penny	020, 034, 039, 040, 041, 044, 048, 050, 058, 066, 069, 076, 088, 090, 095, 125, 136, 159
	JCB	046
	JVC	019, 051, 052, 072, 073, 091, 117, 126
K	Kawasho	018, 046
	Kenwood	038, 056, 057
	Kloss	010, 032
	Kloss Novabeam	005, 122, 127, 131
	KTV	074, 123
L	Loewe	071
	logik	144
	Luxman	031
	LXI	008, 014, 017, 024, 040, 044, 063, 071, 075, 076, 077, 118, 125
M	Magnavox	005, 010, 017, 030, 033, 038, 050, 056, 071, 078, 079, 085, 089, 108, 109, 110, 127, 131, 132, 145
	Marantz	015, 017, 071, 080
	Matsui	027
	Memorex	014, 027, 045, 083, 118, 144
	Metz	160, 161, 162, 163

	MGA	001, 039, 048, 056, 057, 058, 065, 081, 083
	Midland	125
	Minutz	066
	Mitsubishi	001, 016, 039, 048, 056, 057, 058, 065, 081, 082, 083, 105
	Montgomery Ward	011, 020, 144, 145, 146
	Motorola	121, 147
	MTC	031, 034, 039, 048, 095
N	NAD	008, 075, 076, 128
	National	002, 036, 061, 147
	National Quenties	002
	NEC	031, 038, 039, 048, 057, 084, 086, 135, 147
	Nikko	054
	NTC	054
O	Optimus	128
	Optonica	011, 012, 093, 121
	Orion	004, 139
P	Panasonic	002, 009, 017, 036, 037, 071, 141, 143, 147
	Philco	005, 010, 030, 050, 051, 056, 079, 085, 127, 131, 132, 145, 147
	Philips	005, 015, 017, 050, 051, 056, 078, 087, 088, 089, 131, 132, 147
	Pioneer	124, 128, 142
	Portland	054
	Price Club	095
	Proscan	040, 044, 125
	Proton	035, 051, 092, 129
	Pulsar	042
Q	Quasar	036, 037, 074, 141
R	Radio Shack	011, 044, 063, 093, 118
	RCA	040, 044, 125, 130, 137, 151, 152
	Realistic	014, 063, 093, 118
S	Saisho	027
	Samsung	003, 015, 034, 053, 055, 057, 094, 095, 136, 153
	Sansui	139
	Sanyo	013, 014, 021, 022, 063, 064, 081, 096
	SBR	015
	Schneider	015
	Scott	062
	Sears	008, 014, 021, 022, 023, 024, 025, 040, 052, 057, 062, 063, 064, 065, 073, 075, 076, 097, 098, 125, 159
	Sharp	011, 012, 013, 026, 093, 099, 100, 104, 121
	Siemens	013
	Signature	045, 144
	Simpson	050
	Sony	043, 046, 138, 146, 150
	Soundesign	030, 050, 062
	Spectricon	007, 033
	Squareview	004
	Supre-Macy	032, 122
	Supreme	046
	Sylvania	005, 010, 017, 030, 078, 079, 085, 089, 101, 127, 131, 132, 145, 155
	Symphonic	004, 148
T	Tandy	012, 121
	Tatung	036, 124
	Technics	037
	Teknika	001, 030, 032, 034, 052, 054, 078, 083, 095, 144, 156, 157
	Tera	035, 129
	THOMSON	165, 166
	Toshiba	008, 014, 034, 063, 075, 076, 095, 097, 136, 158, 159
U	Universal	020, 066, 088
V	Victor	019, 073, 126
	Video Concepts	016
	Viking	032, 122
W	Wards	005, 045, 066, 078, 085, 088, 089, 093, 102, 103, 131, 132, 148
Z	Zenith	042, 114, 115, 140, 144, 149
	Zonda	007

Cable

A	ABC	006, **[007]***, 008, 009
	Archer	010, 011
C	Century	011
	Citizen	011
	Colour Voice	012, 013
	Comtronic	014
E	Eastern	015
G	Garrard	011
	Gemini	030, 033, 034
	General Instrument	030, 031, 032
H	Hytex	006
J	Jasco	011
	Jerrold	009, 016, 017, 026, 032
M	Magnavox	018
	Movie Time	019
N	NSC	019
O	Oak	000, 006, 020
P	Panasonic	001, 005
	Philips	011, 012, 013, 018, 021
	Pioneer	002, 003, 022
R	RCA	029
	Regency	015
S	Samsung	014, 023
	Scientific Atlanta	004, 024, 025
	Signal	014
	SL Marx	014
	Starcom	009
	Stargate	014
T	Teleview	014
	Tocom	007, 016
	TV86	019
U	Unika	011
	United Artists	006
	Universal	010, 011
V	Viewstar	018, 019
Z	Zenith	027, 028

Satellite Receiver

A	Alphastar	054
C	Chaparrali	035, 036
D	Dishnet	053
	Drake	037, 038
E	Echostar Dish	062, 066
G	GE	048, 055, 056
	General Instruments	039, 040, 041
	Grundig	070, 071, 072, 073
H	Hitachi	058, 059
	Hughes Networkr	063, 064, 065, 069
J	JVC	057
K	Kathrein	074, 075, 076, 083
M	Magnavoxl	060
N	Nokia	070, 080, 084, 085, 086
P	Philips	060
	Primestar	051
	Proscan	048, 055, 056
R	RCA	048, 055, 056, 068
	Realistic	042
S	Sierra I	036
	Sierra II	036
	Sierra III	036
	Sony	049, 067
	STS1	043
	STS2	044
	STS3	045
	SRS4	046
T	Technisat	077, 078, 079, 081, 082
	Toshiba	047, 050
	Uniden	061

CD Player

A	Aiwa	001, 035, 043
B	Burmster	002
C	Carvery	003, 035
D	Denon	**[111]***, 044
E	Emerson	004, 005, 006, 007
F	Fisher	003, 008, 009, 010
J	JVC	018, 019
	Kenwood	011, 012, 013, 014, 017
M	Magnavox	006, 015, 035
	Marantz	016, 028, 035
	MCS	016, 024
O	Onkyo	025, 027
	Optimus	017, 020, 021, 022, 023
P	Philips	014, 032, 033, 035
	Pioneer	006, 022, 030
S	Sears	006
	Sony	023, 031
T	Teac	002, 009, 028
	Technics	016, 029, 036
W	Wards	035, 037
Y	Yamaha	038, 039, 040, 041
Z	Zenith	042

CD Recorder

D	Denon	**[151]***, 112
P	philips	112

MD Recorder

A	Kenwood	053, 054
B	Onkyo	057
C	Sharp	055
D	Denon	113
E	Sony	056

Tape Deck

A	Aiwa	001, 002
C	Carver	002
D	Denon	111
H	Harman/Kardon	002, 003
J	JVC	004, 005
K	Kenwood	006
M	Magnavox	002
	Marantz	002
O	Onkyo	016,018
	Optimus	007,008
P	Panasonic	012
	Philips	002
	pioneer	007, 008, 009
S	Sony	013, 014, 015
T	Technics	012
V	Victor	004
W	Wards	007
Y	Yamaha	010, 011

プリセットコード	111（初期設定）			014
DENON 製 DVD プレーヤー	DVD-555 DVD-755 DVD-900 DVD-910 DVD-955 DVD-1000 DVD-1200 DVD-1500 DVD-1710 DVD-1910	DVD-1930 DVD-2200 DVD-2800 DVD-2800II DVD-2900 DVD-2910 DVD-2930 DVD-3800 DVD-3910 DVD-3930	DVD-5900 DVD-5910 DVD-9000 DVM-715 DVM-1800 DVM-1805 DVM-1815 DVM-2815 DVM-4800	DVD-800 DVD-1600 DVD-2000 DVD-2500 DVD-3000 DVD-3300

[ ]＊：お買い上げ時に設定されているプリセットコードです。

株式会社デノンコンシューマーマーケティング

本　　社　　〒104-0033 東京都中央区新川 1-21-2
茅場町タワー 14F

お客様相談センター　TEL：045-670-5555

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間　9：30 ～ 12：00、12：45 ～ 17：30
（弊社休日および祝日を除く、月～金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。

購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

Printed in China　00D 511 4644 108B